

統合新病院の整備場所に係る経緯等について

《目次》

整備候補地決定までの経緯	1
県立中央病院と青森市民病院のあり方検討協議会の提言	4
2病院の施設の現状	9
整備場所の基本的な考え方	10
検討対象地	14
○まちづくり、通院アクセス	17
○救急搬送	31
○災害関連	36
統合新病院の整備に望ましい場所について（テーマごと/論点整理）	51
青森市統合新病院整備場所等検討会議 構成員意見	52
共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議 構成員意見	53
共同経営・統合新病院の整備場所に係る知事と市長の会談	54
整備場所検討対象地に対する知事の考え	55
整備場所検討対象地に対する市長の考え	60

整備候補地決定までの経緯

(1) 県立中央病院と青森市民病院のあり方検討協議会の提言(R3.12月)

- 県立中央病院と青森市民病院は、地域において急性期医療や政策医療の基幹的役割を担っているが、両病院において医師をはじめとした医療従事者を十分に確保していくことが難しいほか、施設の老朽化・狭隘化、経営基盤の強化、新興感染症対策への対応など多くの課題を抱えている
- こうした状況を踏まえ、持続可能な医療提供体制を構築していくためには、医療資源の重複投資や施設の課題が解消され、医療従事者の集積、集約化などにより診療機能の向上も期待される**「共同経営の上、統合病院を新築整備することが最も望ましい」**

(2) 知事と青森市長による基本方針の表明(R4.2月)

- あり方検討協議会からの提言を踏まえて、県と青森市が協議し、**「県立中央病院と青森市民病院のあり方について、青森県と青森市の共同経営による統合病院を新築整備する」**との基本方針を表明

(3) 検討体制の構築

- 県と市の関係部局長等で構成する**「共同経営・統合新病院整備調整会議」**の設置(R4.7月)
- **「青森県病院局・青森市民病院事務局合同検討チーム」**の設置(R4.4月)

(4) 共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項の策定(R4.8月)

《整備場所の候補地選定の観点》

- ① 医療の高度化や療養環境の充実など、整備に必要な面積の確保
- ② 大規模災害発生時においても、診療に重大な支障を来さない
- ③ 工期短縮・費用縮減の観点から、既存建物がなく確保が容易な土地
- ④ 医療圏域内外の救急患者の搬送、患者の通院アクセスに適している

【検討対象地】

- ① **旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地**
- ② **青森県総合運動公園**
- ③ **青い森セントラルパーク**

(5) 共同経営・統合新病院の検討対象地に係る外部有識者からの意見聴取(R4.12月)

- 基本的事項における検討対象地3か所について、(1)災害関連、(2)救急搬送、(3)通院アクセス、(4)都市計画(まちづくり)の4つのテーマで外部有識者から意見聴取を実施

整備候補地決定までの経緯

(6) 知事・市長会談 (R5.9.22)

- 原則として県と市の共同経営による**統合新病院を整備する方針を維持**する
- オープンな場で検討を進めるため、「**共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議**」を設置する
- **整備場所や公共交通については青森市で主体的に議論**する ⇒ 「**青森市整備場所等検討会議**」を設置する
- 新病院整備については病院だけでなく関係部局と一体的に検討を進める
- スケジュールの変更など**議会への説明が必要な場合には丁寧に説明**する

(7) 共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議の開催

- 第1回 (R5.10.31)、第2回 (R5.12.23)、第3回 (R6.2.23) ⇒ 一般病床の規模など意見聴取

(8) 青森市統合新病院整備場所等検討会議の開催

- 第1回 (R5.11.20)、第2回 (R5.12.22)、第3回 (R6.1.26) ⇒ **外環状線周辺エリアも含め検討**

(9) 共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項の見直し(R6.2月)

《整備場所の候補地選定の観点》

- ① 医療の高度化や療養環境の充実など、整備に必要な面積の確保
- ② 大規模災害発生時においても、診療に重大な支障を来さない
- ③ 工期短縮・費用縮減の観点から、**できる限り、既存建物がなく、確保が容易な土地**
- ④ 医療圏域内外の救急患者の搬送、患者の通院アクセスに適している
- ⑤ **医療従事者や患者・家族など多くの方が集まる拠点として、まちづくりの観点から適している**

【検討対象地】

- ① 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地
- ② 青森県総合運動公園
- ③ 青い森セントラルパーク
- ④ **上記以外の県有地、市有地及び民有地のうち、適当と考えられる場所(検討中)**

整備候補地決定までの経緯

(10) 第4回有識者会議(R6.5.26)

- 整備場所等検討会議の意見(12名中8名が青い森セントラルパークが望ましい)を報告
- 多くの構成員から、**青い森セントラルパークの交通アクセスに対する懸念**が示され、**外環状線周辺エリア**について、民有地に限らず、公有地も含めて検討対象となりうる場所がないか検討し、**具体的な場所があるのであれば、青い森セントラルパークと比較検討するよう求め**があったもの

(11) 第13回調整会議(R6.7.10)

- **「浜田中央公園・県営スケート場周辺」**について、既存施設があるものの、築年数が相当程度経過し、概ね耐用年数を迎えていることから、**大規模改修又は建替えを検討する時期**と考え、県から市に対し**検討対象になりうるのではないかと提案**

(12) 県と市による調整

- 有識者会議(7/21)、【県】議員全員協議会(7/22、8/9)、【市】議員全員協議会(8/8)、検討会議(7/23、7/29、8/14)、住民懇談(9/1)、【市】議員説明会(9/10)といった手続きを経て、「**浜田中央公園・県営スケート場周辺**」を検討対象地に追加

(13) 第7回整備場所等検討会議(R6.9.12)及び第6回有識者会議(R6.9.14)

- 検討会議では「青い森セントラルパーク」を望ましいとする声が多かった一方で、有識者会議では「**浜田中央公園・県営スケート場周辺**」が望ましいとする声が多く、**立場や視点によって様々な意見**があったことから、**有識者会議では意見の集約を行わず、最終的な決定については、青森県知事と青森市長の判断**に委ねられたもの

(14) 知事・市長会談(R6.9.16)

- 統合新病院の整備場所については、青森県立中央病院が担う**大規模災害時の基幹災害拠点病院としての立地を最優先させ、浜田中央公園・県営スケート場周辺を整備候補地**とすることとし、整備・運営に当たっては、県全域を対象とした高度、専門、政策医療の拠点病院である青森県立中央病院と青森地域保健医療圏の中核病院である青森市民病院の双方の機能を最大限発揮できる病院として取り組んでいくことで合意
- また、これに伴う課題を解決するため、**統合新病院の整備により移転が必要となるサンドーム**については、**青い森セントラルパーク地区に移転整備**することを基本とすることなど、4点について、県と市が協力しながら対策を実施することで合意

県立中央病院と青森市民病院のあり方検討協議会の提言

(1) 協議会の検討経過

① 青森県の医療の課題等

- 平均寿命は年々延伸しているものの、男女ともに全国最下位。
- 総人口について、急激に減少する一方、75歳以上人口は2035年まで増加し、高齢化が進行。
- 入院患者数は2035年をピークに減少、外来患者数は既に減少傾向。
- 医療従事者数について、薬剤師、歯科衛生士、歯科医師、臨床工学技士、視能訓練士など、多くの職種で全国平均を下回っている。

② 青森地域保健医療圏の医療の課題等

- 県立中央病院と青森市民病院の2病院で地域全体の約半数を占めている高度急性期、急性期の病床数は2025年度の必要病床数を上回っており、その適正化が求められている。
- 救急搬送人員数は年間1万件前後で推移しており、救急搬送は圏域内でほぼ完結している。県立中央病院と青森市民病院の2病院で地域内の半数以上の救急搬送の受入れを行っている。

③ 県立中央病院及び青森市民病院の課題及び連携形態のあり方

- 両病院は急性期病院としての機能を担っている一方、医師をはじめとした医療従事者不足等により十分な診療体制が確保できていないことや、施設の老朽化等により制度変更や医療機能の進展への対応が難しいことなど多くの課題を抱えている。
- 人口減少、高齢化の進行など地域医療を取り巻く課題を見据え、将来的に持続可能な医療提供体制を構築していくためには、両病院の共同・連携が必要。

県立中央病院と青森市民病院のあり方検討協議会の提言

(2) 県立中央病院と青森市民病院のあり方について(提言)

① 両病院のあり方について

持続可能な医療提供体制を構築していくためには、医療資源の重複投資や施設の課題が解消されるとともに、医療従事者の集積、集約化などにより診療機能の向上も期待される「共同経営の上、統合病院を新築整備する」ことが最も望ましいと考える。

② 共同経営・統合新病院整備に当たっての留意事項等

● 提言では、共同経営、統合病院を新築整備するに当たり留意すべき事項として、以下の事項を提示。

- ✓ 経営形態
- ✓ 病床規模
- ✓ 整備場所の考え方
- ✓ 救急医療体制
- ✓ 新興感染症対策
- ✓ 転院患者の受入先確保
- ✓ 地域医療支援

● 新病院開院までの準備期間も含め、県立中央病院、青森市民病院及び大学等が地域医療をしっかりと支えながら、早期に効果が発現できるよう取組を進めることを期待するとの意見をいただいた。

共同経営・統合新病院の検討対象地に係る外部有識者からの意見聴取（令和4年12月10日）

検討対象地3か所について、4つのテーマで外部外部有識者から意見徴収を実施

【外部有識者】

分野	役職名	氏名	備考
地震工学	弘前大学工学部地球環境防災学科 教授	片岡 俊一	
建築学	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	河合 慎介	
災害医療	国立病院機構本部DMA T事務局 次長	近藤 久禎	書面にて意見聴取
都市計画	青森大学 名誉教授	井上 隆	
地域計画	青森公立大学経営経済学部准 教授	足達 健夫	
救急	青森地域広域事務組合 消防長	佐藤 芳之	

【意見聴取した主な事項】

テーマ	意見聴取した主な事項
(1) 災害関連	①地震、津波による影響想定 ②地震、津波、洪水による被害想定及び対策（周辺環境、病院施設） ③地震、津波、洪水による診療・運営面への影響 など
(2) 救急搬送	①救急搬送の観点からの課題及び新病院整備場所として望ましい条件 ②検討対象地に対する救急搬送の観点での考え など
(3) 通院アクセス	①病院へのアクセス手段についての考え ②新病院整備による周辺道路での混雑などの影響及び対策 ③検討対象地に対するアクセスについての考え など
(4) 都市計画（まちづくり）	①新病院がまちづくりに与える影響及び整備場所の要件 ②郊外に新病院を整備することにより新たな人の流れを作ること ③検討対象地に対する都市計画(まちづくり)の観点から将来に与える影響 など

共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議

【有識者会議 構成員】

区分	役職名	氏名
学識経験者	弘前大学 学長	福田 眞作 (座長)
	東北大学加齢医学研究所 呼吸器外科学分野 教授	岡田 克典
	弘前大学理工学部地球環境防災学科 教授	片岡 俊一
	青森公立大学経営経済学部地域みらい学科 准教授	足達 健夫
医療関係者等	青森県医師会 会長	高木 伸也
	青森市医師会 会長	北畠 滋郎
	全国自治体病院協議会青森県支部 支部長 (十和田市立中央病院事業管理者)	丹野 弘晃
	医療法人芙蓉会 村上病院 院長	水木 一郎
	平内町国民健康保険 平内中央病院 院長	首藤 邦昭
	青森地域広域事務組合 消防長	(~R6.3)佐藤 芳之 (R6.4~)村上 靖
医療を受ける 立場にある者等	乳がんピアサポートBECあおもり 代表	佐藤 庸子
	血液疾患と歩む患者・家族の会 (青森県医療審議会委員)	納谷 むつみ
	青森市町会連合会 会長	佐々木 重光
	青森市病院運営審議会 前委員	原子 睦子

【有識者会議の開催経過】

回次	開催月日	案件
第1回	令和5年10月31日	○有識者会議の今後の進め方等について ○共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項及び今後検討が必要と考えられる項目等について
第2回	令和5年12月23日	○統合新病院の病床機能・病床数等について ○統合新病院の開院時期について ○地域医療連携推進法人制度について
第3回	令和6年 2月23日	○共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項の見直し (案) について
第4回	令和6年 5月26日	○共同経営・統合新病院整備に係る整備場所について ○共同経営・統合新病院の経営形態について
第5回	令和6年 7月21日	○整備場所の比較検討資料について
第6回	令和6年 9月14日	○共同経営・統合新病院整備に係る整備場所について
第7回	令和6年11月12日	○共同経営・統合新病院に係る基本計画について ○地域医療連携推進法人について

青森市統合新病院整備場所等検討会議

【検討会議 構成員】

区分	役職名	氏名
学識経験者	青森公立大学経営経済学部地域みらい学科 准教授	足達 健夫（座長）
	青森市浪岡商工会 会長	一戸 善正
	青森商工会議所 専務理事	葛西 崇
	青森県建築士会 副会長	工藤 真人
	国立病院機構本部DMAT事務局 次長	近藤 久禎
	青森市農業委員会 会長	福士 修身
	青森県立保健大学健康科学部栄養学科 准教授	三好 美紀
	青森県不動産鑑定士協会 監事	最上 伸子
医療関係者等	青森市医師会 会長	北畠 滋郎
	青森地域広域事務組合 消防長	(~R6.3)佐藤 芳之 (R6.4~)村上 靖
医療を受ける 立場にある者	青森市町会連合会 会長	佐々木 重光
	青森市病院運営審議会 前委員	原子 睦子

【検討会議の開催経過】

回次	開催月日	案件
第1回	令和5年 11月20日	○整備場所の検討対象地選定の考え方について ○整備場所の検討事項について
第2回	令和5年 12月22日	○統合新病院の整備に望ましい場所について
第3回	令和6年 1月26日	○統合新病院の整備に望ましい場所について ○跡地利用の方向性について
第4回	令和6年 7月23日	○県からの提案内容について ○今後の検討方法について
第5回	令和6年 7月29日	○統合新病院の整備場所について
第6回	令和6年 8月14日	○統合新病院の整備場所について
第7回	令和6年 9月12日	○統合新病院の整備に望ましい場所について

2病院の施設の現状

項目	県立中央病院	青森市民病院
		
築年数 [開院時期]	43年 [昭和56年9月]	39年 [昭和60年11月]
立地場所	青森市東造道（市東部）	青森市勝田（市中央部）
用途地域	第一種住居地域	第二種中高層住居専用地域
敷地面積	54,716.69㎡ (借地のヘリポート、職員駐車場除く)	18,684.00㎡
延床面積	59,130.99㎡ (一般病床許可病床 579床)	36,310.08㎡ (一般病床許可病床 459床 (令和7年4月から352床))
[内訳]	本棟(地下1階、地上10階建) 55,673.77㎡ 救命救急センター(地上3階建) 2,819.10㎡ MRI棟(地上2階建) 638.12㎡	本院(地下1階、地上7階建) 36,310.08㎡
駐車場収容台数 [面積]	490台(立体駐車場) [13,264.72㎡]	308台 [9,298.67㎡]
職員用駐車場収容台数 [面積]	749台 [19,616.09㎡]	44台 (うち25台は、上記駐車場の一部を使用) [707.41㎡] (上記駐車場以外)
延入院患者数(一般) (令和5年度)	176,079人	85,338人
新入院患者数(一般) (令和5年度)	13,647人	6,537人
1日平均外来患者数 (令和5年度)	1,213人	704人
職員数 (令和6年4月1日時点)	1,596人	715人

整備場所の基本的な考え方

県立中央病院と青森市民病院のあり方検討協議会の提言(R3.12月)

≪整備場所の考え方≫

整備場所の選定にあたっては、以下の点について考慮した上で、県と市で検討すること。

項 目	
①	医療の高度化や療養環境の充実など、整備に必要な面積が確保できること。
②	津波や洪水などによる大規模災害発生時においても、診療に重大な支障を来さないこと。
③	工期短縮及び費用節減の観点から、既存建物がなく、確保が容易な土地であること。
④	圏域内外からの救急患者の搬送や患者の通院アクセスに適していること。



共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項の見直し(R6.3月見直し後)

≪整備場所≫

次の観点やドクターヘリの運航、医療従事者の通勤確保等を考慮し、候補地を選定する。

項 目	
①	医療の高度化や療養環境の充実など、整備に必要な面積の確保
②	大規模災害発生時においても、診療に重大な支障を来さない
③	工期短縮・費用節減の観点から、できる限り、既存建物がなく、確保が容易な土地
④	医療圏域内外の救急患者の搬送、患者の通院アクセスに適している
⑤	医療従事者や患者・家族など多くの方が集まる拠点として、まちづくりの観点から適している

(留意事項等)

検討対象地

- ①旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地(約10.8万㎡)
- ②青森県総合運動公園(約10万㎡)※野球場部分を除く
- ③青い森セントラルパーク(約7.4万㎡)
- ④上記以外の県有地、市有地及び民有地のうち、適当と考えられる場所(検討中)

整備場所の検討対象地選定の考え方

新病院整備に必要な面積の目安(検討対象地選定の際の考え方)

(1)800床～900床を有する自治体病院の敷地面積等

病院名	病床数	敷地面積(m ²)
東京都立駒込病院	815	33,805
大垣市民病院	817	37,645
豊橋市民病院	800	96,646
大阪急性期・総合医療センター	865	40,693
和歌山県立医科大学附属病院	800	56,520
愛媛県立中央病院	827	33,679

(2)北海道・東北地区の基幹災害拠点病院の敷地面積等

病院名	病床数	敷地面積(m ²)
札幌医科大学附属病院	922	23,718
岩手医科大学附属病院	1,000	146,920
盛岡赤十字病院	398	81,087
国立病院機構仙台医療センター	660	56,009
秋田大学医学部附属病院	615	43,379
山形県立中央病院	609	106,649
福島県立医科大学附属病院	778	129,567

(3)県内の主な病院の敷地面積等

病院名	病床数	敷地面積(m ²)
青森県立中央病院	684	54,717
八戸市立市民病院	628	85,937
弘前大学医学部附属病院	636	43,864
青森市民病院	459	18,684
つがる総合病院	438	13,874
むつ総合病院	384	47,673

項目① 必要な面積の確保

県立中央病院(5.5万m²)と青森市民病院(1.9万m²)とが統合する新病院の整備場所の候補地とするためには、**少なくとも県立中央病院以上の敷地面積が必要**



県・市有地から5万m²以上で、利用可能な土地を抽出

(1)公有地

- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地(約10.8万m²)
- ・青森県総合運動公園(約10万m²)
- ・青い森セントラルパーク(約7.4万m²)
- ・旧梨の木清掃工場(約21万m²)
- ・小館スポーツ広場(約9.9万m²)
- ・旧サイクリングセンター(約5.4万m²)

項目④ 通院アクセスに適した場所

都市計画区域外等であり、市街地から離れることで通院等に不便、インフラ整備が必要などのため、利便性を考慮し、**対象から除外**

項目③ 確保が容易な土地

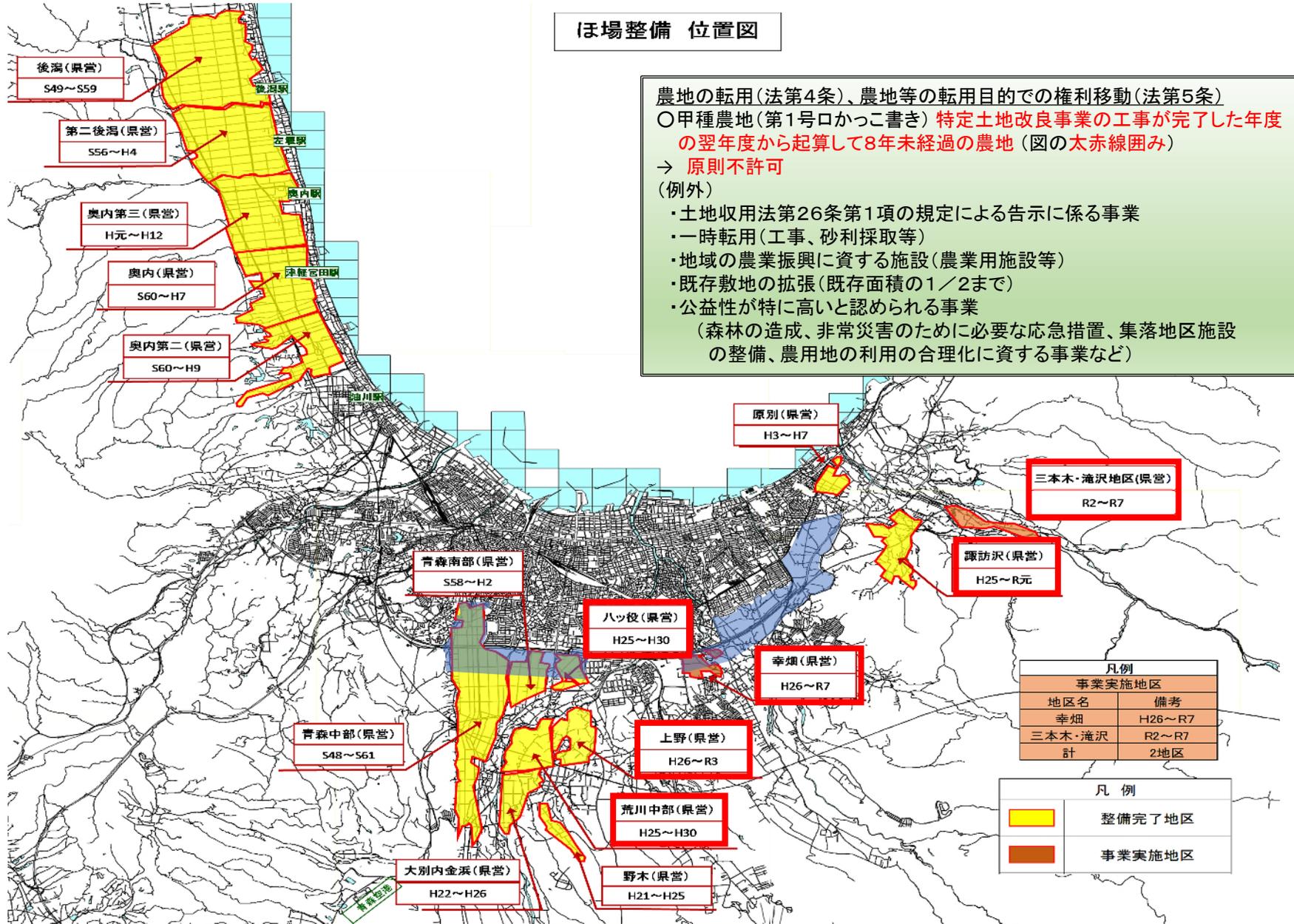
(2)私有地

用地取得の可能性が不透明(用地取得に長期間要するなど)、また、取得費用が新たに必要

※ 項目②災害関連と項目④救急搬送に適した場所は別途詳細検討

ほ場整備の状況及び農地転用規制

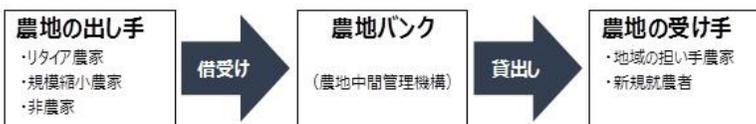
ほ場整備 位置図



農地中間管理事業における契約件数と契約面積

○農地中間管理事業について

都道府県知事が指定する農地バンク(農地中間管理機構)が、地域計画(目標地図)に位置付けた受け手に対して、農地を貸したい人 から借り受け、まとまりのある形で貸付けする事業です。



≪農地を貸したいかた(出し手)のメリット≫

1. 受け手への農地のマッチング、賃借料や貸付期間の交渉及び契約手続を農地バンクが行います。
2. **10年以上の期間**、所有農地を全て農地バンクに貸し付けた場合、**一定期間固定資産税が2分の1に軽減**されます。(10a未満の自作地は残せます。)

≪農地を借りたいかた(受け手)のメリット≫

1. 受け手に登録することにより、自身の経営地に近い貸付希望農地の情報提供が受けられます。
2. 借受農地の所有者が複数であっても、契約や賃料の支払いは農地バンクのみとなります。

出典：農林水産省、青森市HP

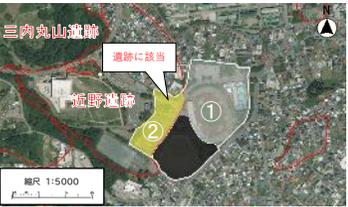
○契約期間：3年～15年程度

令和5年11月末現在

区域【大字】	契約件数	面積(m ²)
1. 後潟区域【大字四戸橋、後潟、六枚橋など】	148	1,725,411
2. 奥内区域【大字西田沢、飛鳥、奥内など】	91	699,895
3. 油川区域【大字油川、羽白】	7	43,959
4. 新城区域【大字新城、石江、戸門など】	19	149,042
5. 滝内区域【大字三内、孫内、岩渡】	1	9,584
6. 大野区域【大字 大野 、細越、安田】	29	201,537
7. 高田区域【大字高田、小館、入内など】	25	170,188
8. 荒川区域【大字 荒川 、 八ツ役 、上野など】	221	1,081,951
9. 横内区域【大字横内、野尻、四ツ石など】	55	256,126
10. 筒井区域【大字 筒井 、浜田、 幸畑 など】	71	306,826
11. 浜館区域【大字 浜館 、戸山、 沢山 など】	14	845,267
12. 原別区域【大字原別、平新田、諏訪沢など】	24	117,362
13. 東岳区域【大字宮田、馬屋尻、矢田など】	63	226,977
14. 野内区域【大字野内、久栗坂、浅虫】	6	28,570
15. 浪岡区域【大字浪岡、五本松、王余魚沢】	17	98,732
16. 大杉区域【大字大釈迦、杉沢、徳才子など】	30	189,233
17. 女鹿沢区域【大字女鹿沢、下十川、増館】	101	693,703
18. 野沢区域【大字吉野田、樽沢、郷山前など】	103	807,418
19. 五郷区域【大字本郷、細野、相沢など】	24	142,142
合計	1,049	7,793,923

青森市農林水産部調べ

検討対象地の概要（総括表）

区分	旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	青森県総合運動公園	青い森セントラルパーク	浜田中央公園・県営スケート場周辺	外環状線周辺エリア																																																					
敷地概要	 <p>図面 ※拡大版あり</p>																																																									
	敷地内訳	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積 (㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 旧県立青森商業高校</td> <td>約5.3万</td> </tr> <tr> <td>② 県立中央病院</td> <td>約5.5万</td> </tr> <tr> <td>③ 遺跡該当部分【県立中央病院敷地内】</td> <td>うち約0.8万</td> </tr> <tr> <td>条件付面積</td> <td>無条件想定面積</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>約5.5万</td> <td>約5.3万</td> <td>約10.8万</td> </tr> </tbody> </table>	名称	面積 (㎡)	① 旧県立青森商業高校	約5.3万	② 県立中央病院	約5.5万	③ 遺跡該当部分【県立中央病院敷地内】	うち約0.8万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約5.5万	約5.3万	約10.8万	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積 (㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 青森県総合運動公園</td> <td>約10万</td> </tr> <tr> <td>② 遺跡該当部分【青森県総合運動公園敷地内】</td> <td>うち約2.7万</td> </tr> <tr> <td>条件付面積</td> <td>無条件想定面積</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>約2.7万</td> <td>約7.3万※</td> <td>約10万</td> </tr> </tbody> </table> <p>※三内丸山遺跡からの眺望に影響を与える可能性有 ⇒建物の高さが制限される可能性有</p>	名称	面積 (㎡)	① 青森県総合運動公園	約10万	② 遺跡該当部分【青森県総合運動公園敷地内】	うち約2.7万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約2.7万	約7.3万※	約10万	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積 (㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 青い森セントラルパーク</td> <td>約7.4万</td> </tr> <tr> <td>②+③+④ 青森操車場跡地周辺整備推進事業用地</td> <td>約8.3万</td> </tr> <tr> <td>条件付面積</td> <td>無条件想定面積</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>約8.3万</td> <td>約7.4万</td> <td>約15.7万</td> </tr> </tbody> </table> <p>【連絡通路設置などで活用可能な敷地】</p>	名称	面積 (㎡)	① 青い森セントラルパーク	約7.4万	②+③+④ 青森操車場跡地周辺整備推進事業用地	約8.3万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約8.3万	約7.4万	約15.7万	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積 (㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 県営スケート場</td> <td>約4.3万</td> </tr> <tr> <td>② 浜田中央公園 ※土地区画整理事業で整備</td> <td>約3.0万</td> </tr> <tr> <td>③ サンドーム</td> <td>約1.5万</td> </tr> <tr> <td>条件付面積</td> <td>無条件想定面積</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>約4.5万</td> <td>約4.3万</td> <td>約8.8万</td> </tr> </tbody> </table> <p>【代替機能が整備された場合に活用可能な敷地】</p>	名称	面積 (㎡)	① 県営スケート場	約4.3万	② 浜田中央公園 ※土地区画整理事業で整備	約3.0万	③ サンドーム	約1.5万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約4.5万	約4.3万	約8.8万	-
	名称	面積 (㎡)																																																								
	① 旧県立青森商業高校	約5.3万																																																								
	② 県立中央病院	約5.5万																																																								
	③ 遺跡該当部分【県立中央病院敷地内】	うち約0.8万																																																								
	条件付面積	無条件想定面積	合計																																																							
	約5.5万	約5.3万	約10.8万																																																							
	名称	面積 (㎡)																																																								
	① 青森県総合運動公園	約10万																																																								
② 遺跡該当部分【青森県総合運動公園敷地内】	うち約2.7万																																																									
条件付面積	無条件想定面積	合計																																																								
約2.7万	約7.3万※	約10万																																																								
名称	面積 (㎡)																																																									
① 青い森セントラルパーク	約7.4万																																																									
②+③+④ 青森操車場跡地周辺整備推進事業用地	約8.3万																																																									
条件付面積	無条件想定面積	合計																																																								
約8.3万	約7.4万	約15.7万																																																								
名称	面積 (㎡)																																																									
① 県営スケート場	約4.3万																																																									
② 浜田中央公園 ※土地区画整理事業で整備	約3.0万																																																									
③ サンドーム	約1.5万																																																									
条件付面積	無条件想定面積	合計																																																								
約4.5万	約4.3万	約8.8万																																																								
位置	東部	西部	中央部	南部	外環状線周辺																																																					
敷地面積	約10.8万㎡	約10万㎡	約7.4万㎡	約8.8万㎡	-																																																					
所有者	県	県	県	市	私有地																																																					
用地取得費用	無	無	無	有 (浜田中央公園整備に係る費用のうち国庫補助金相当額)	有																																																					
既存建物等	校舎・体育館、現院舎等	陸上競技場、プール等	トイレ、園路等	屋内スケート場、屋内グラウンド等	-																																																					
文化財保護	東造道遺跡	三内丸山遺跡、近野遺跡	該当なし	該当なし	桑原稲荷神社遺跡(東部)																																																					
用途地域	第1種住居地域	第2種住居地域	準工業地域	準工業地域	市街化調整区域																																																					
まちづくり	都市計画マスタープランにおける拠点区域	生活拠点区域	該当なし	都市機能誘導区域	生活拠点区域																																																					
	①圏域人口	800m	11,740人	10,958人	26,064人	12,368人																																																				
		2km	41,965人	48,715人	92,124人	59,068人																																																				
		5km	133,586人	161,485人	218,553人	208,192人																																																				
通院アクセス	②自動車到達圏人口	15分	107,201人	132,582人	174,719人	168,143人																																																				
		30分	240,176人	249,102人	259,451人	253,448人																																																				
	③最寄りの幹線道路の状況	1km以内	1km以内	1km以内	1km以内	幹線道路沿い																																																				
	④市営バスの状況	279便 (他路線の減便見込み:影響なし)	71便 (他路線の減便見込み:10.7便)	130便 (他路線の減便見込み:6.3便)	153便 (他路線の減便見込み:4.1便)	場所により異なる 参考 市営バス:21便~34便 ※市営バス他路線の減便見込み:29.2便~52.6便																																																				
	⑤最寄駅からの距離	矢田前駅より1.8km(徒歩22分)	青森駅より3.4km(徒歩44分)	筒井駅より1.8km(徒歩23分)	筒井駅より2.8km(徒歩39分)	場所により異なる																																																				
救急搬送	⑥救急車到達圏人口	5分	47,568人	56,273人	78,225人	58,360人																																																				
		10分	120,358人	143,130人	182,747人	184,145人																																																				
	⑦高速道路からの距離	青森東IC:5.8km	青森IC:1.8km	青森中央IC:3.5km	青森中央IC付近	場所により異なる																																																				
災害関連	地震被災想定	日本海溝	震度5強	震度6弱	震度5強	震度5強~震度6弱																																																				
		入内断層	震度6強	震度6強	震度6弱	震度6弱~震度6強																																																				
	津波被災想定	日本海溝	水位4.4m	該当なし	該当なし	該当なし																																																				
		入内断層	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし																																																				
	洪水被災想定	計画規模	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし																																																				
		想定最大規模	一部有 (最大水位0.8m程度)	該当なし	有 (最大水位1.8m程度)	一部有 (最大水位2.3m程度)	水位0.5m~3.0m																																																			

旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地



青森県総合運動公園



青い森セントラルパーク



浜田中央公園・県営スケート場周辺



外環状線周辺エリア



まちづくり

通院アクセス

青森市における都市計画(まちづくり)の基本的な方針

青森市都市計画マスタープランの概要

目指すべき都市構造(青森市都市計画マスタープランより抜粋)

都市機能誘導区域や生活拠点区域といった「まちの核」となる各拠点の形成と、これらの拠点間を結ぶ公共交通網等を構築することにより、市内各地域の特色を活かした都市づくりを推進します。

都市機能誘導区域は、公共交通の利便性が高く、かつ、医療・商業等の都市機能が集積した区域となっており、今後、医療・商業等の地区の特性に応じた都市機能の立地の促進を図ります。

生活拠点区域は、現在、医療・商業等の都市機能が集積した区域となっており、今後、人口減少社会にあっても、本市の東部地区及び南部地区の生活拠点として、これらの都市機能の立地の促進を図ります。

青森市における土地利用の基本的な方針(青森市都市計画マスタープランより抜粋)

○基本的な方針

基本理念の実現のための具体的な都市機能の配置を定め、土地利用の方針とします。

○基本的な考え方

- ①基本理念を実現するため、各エリアの特性に応じた土地利用配置とします。
- ②都市機能誘導区域や生活拠点区域を核とした、機能的で効率的な土地利用配置とします。
- ③広域高速交通拠点や各機能間の連携等、特性を考慮した土地利用配置とします。
- ④環境にやさしく自然と調和した土地利用配置とします。
- ⑤各都市機能の特性に応じて集約化・複合化を図るなど、効率的な土地利用配置とします。

○高次な都市機能は、**地区拠点区域(都市機能誘導区域や生活拠点区域)**へ誘導

※高次な都市機能

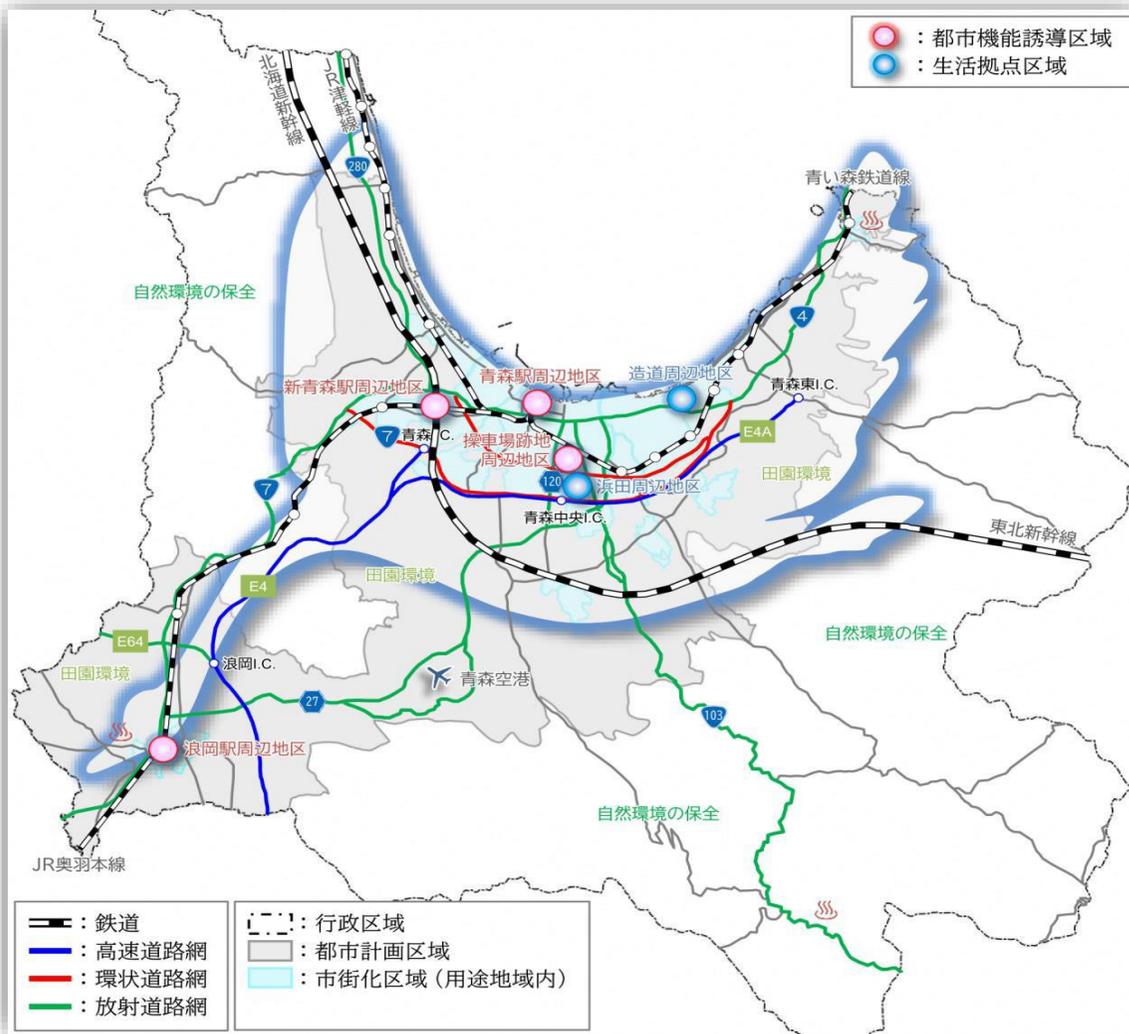
- ①行政機能:市庁舎・分庁舎、保健所、国・県の行政機関
- ②福祉機能:高齢者支援施設、障がい者支援施設
- ③子育て機能:子育て支援施設
- ④**医療機能:病院**
- ⑤商業機能:商業施設(3,000㎡超)
- ⑥教育・文化機能:大学、高等学校、専修学校、ホール、図書館、美術館・博物館等、展示場、特別支援学校
- ⑦防災機能:災害対策本部

地区拠点設置の考え方

- ・青森駅周辺地区、新青森駅周辺地区、**操車場跡地周辺地区**、浪岡駅周辺地区の4地区については、公共交通の利便性が高く、かつ、医療・商業等の都市機能が集積した区域となっていることから、今後においても医療・商業等の地区の特性に応じた都市機能の促進を図る、都市再生特別措置法に基づいた**都市機能誘導区域**として設定している。
- ・**造道周辺地区**、**浜田周辺地区**の2地区については、医療・商業等の都市機能が集積していることから、今後の人口減少社会にあっても、市の東部地区および南部地区の生活拠点として、これら都市機能の立地の促進を図る、本市独自の**生活拠点区域**として設定している。

新たな地区拠点設定の考え方

急激な人口減少や少子高齢化といった現在の状況下において、新たな地区拠点の設定による都市機能の拡大分散化など、都市活力の停滞と空洞化というリスクが想定されるとともに、道路、下水道、公園など都市基盤施設の維持管理費及び大規模修繕といった更新需要の増大や除排雪費の増大によるリスクなどが懸念される。



検討対象地		地区拠点区域
A	旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	生活拠点区域
B	青森県総合運動公園	該当なし
C	青い森セントラルパーク	都市機能誘導区域
D	浜田中央公園・県営スケート場周辺	生活拠点区域

造道周辺地区

(A 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地)

- ・医療施設及び商業施設等の生活利便性を高める都市機能が集積した生活拠点として、これらの施設の立地の促進を図ります。
- ・交通結節機能の強化を図ります。

操車場跡地周辺地区

(C 青い森セントラルパーク)

- ・子育て施設、福祉施設、医療施設等の都市機能が集積した拠点として、既存ストックを有効活用するとともに、これらの施設の集積を図ります。
- ・操車場跡地の将来的な活用を踏まえ、本市の災害時の避難場所に指定されている青い森セントラルパークの防災機能を確保します。

浜田周辺地区

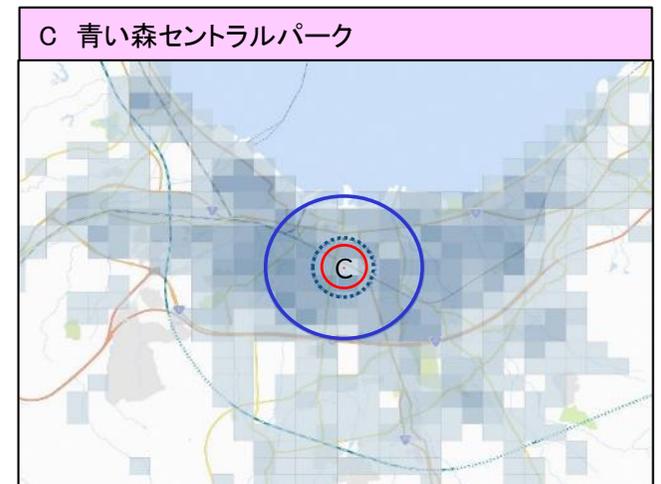
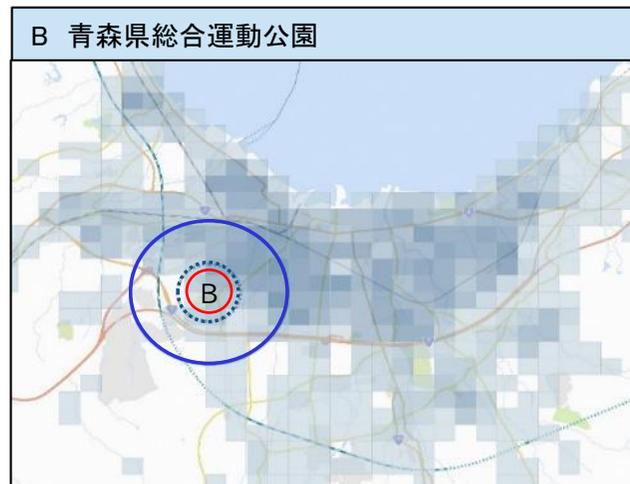
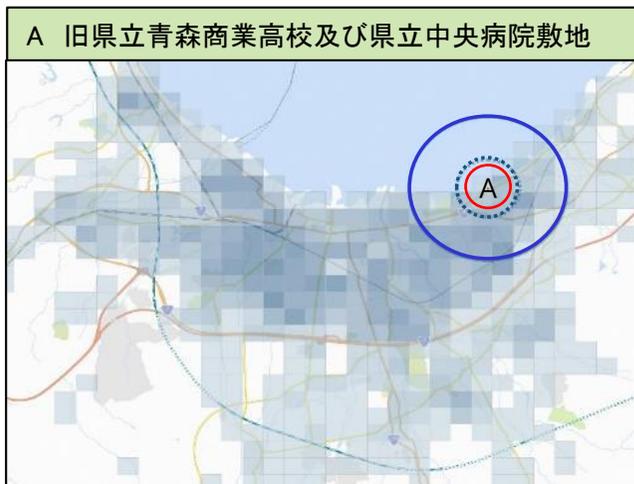
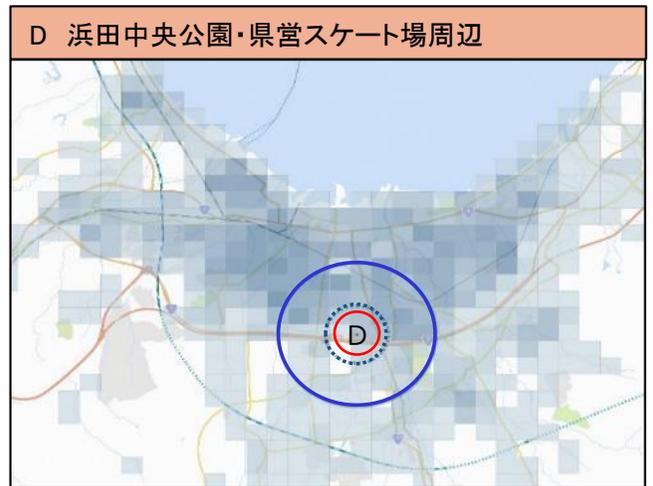
(D 浜田中央公園・県営スケート場周辺)

- ・商業施設の集積に加え、医療施設等の生活利便性を高める都市機能が集積した生活拠点として、これらの施設の立地の促進を図ります。
- ・公共交通のサービス水準の向上等を図ります。

①圏域人口(800m・2km・5km)

単位:人

検討対象地		800m圏域人口	2km圏域人口	5km圏域人口
A	旧県立青森商業高校及び 県立中央病院敷地	11,740	41,965	133,586
B	青森県総合運動公園	10,958	48,715	161,485
C	青い森セントラルパーク	26,064	92,124	218,553
D	浜田中央公園・県営ス ケート場周辺	12,368	59,068	208,192
(参考)外環状線周辺エリア		4,573～13,164	39,300～48,626	127,074～196,679



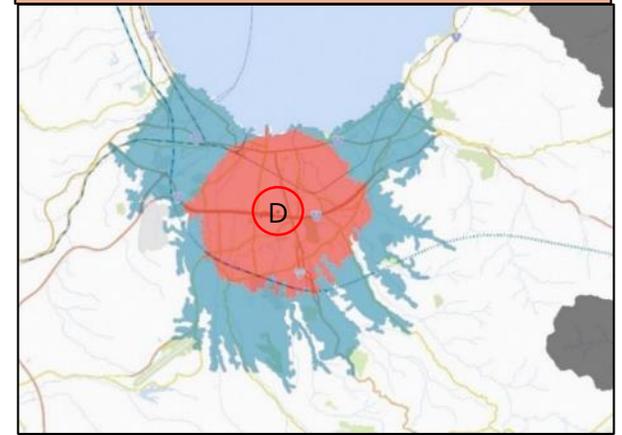
※点線は半径800m、実線は半径2km

②自動車到達圏人口(15分・30分)

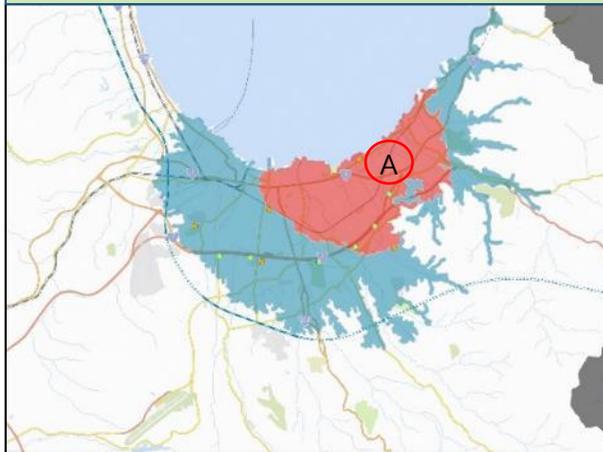
単位:人

検討対象地		自動車15分 到達圏人口	自動車30分 到達圏人口
A	旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	107,201	240,176
B	青森県総合運動公園	132,582	249,102
C	青い森セントラルパーク	174,719	259,451
D	浜田中央公園・県営スケート場周辺	168,143	253,448
(参考)外環状線周辺エリア		101,123～ 148,485	219,991～ 254,738

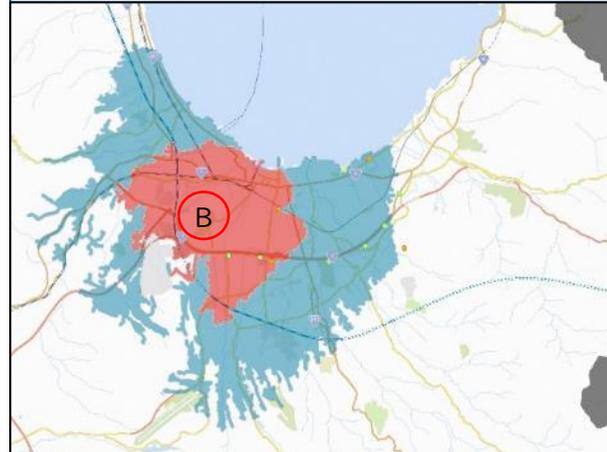
D 浜田中央公園・県営スケート場周辺



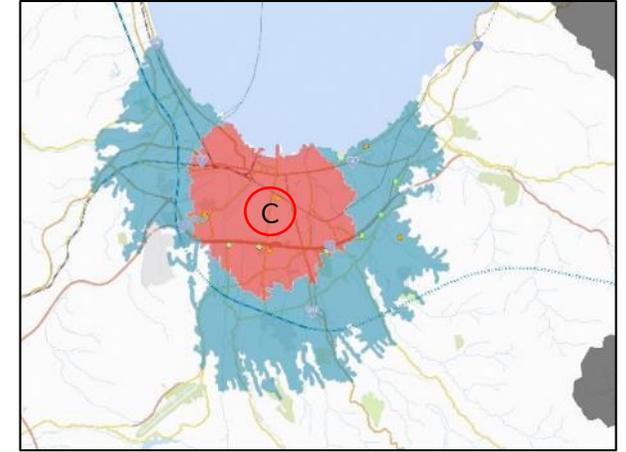
A 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地



B 青森県総合運動公園



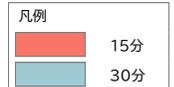
C 青い森セントラルパーク



※到達までの設定速度について

自動車18.9Km/h:平成27年度全国道路・街路交通情勢調査における青森県の商業地域における混雑時旅行速度で推計

※手術・検査などを受ける大きな病院への片道の通院・通所にかかることのできる最大時間は、30分以上の方が約6割(令和元年度少子高齢社会等調査検討事業報告書)
大病院への片道の通院時間は15分以上の方が約8割(平成11年度厚生労働省受療行動調査)



道路関係の課題(渋滞対策)

【主な課題】

- 時間帯によりアクセス道路に車両が集中
- 救急車両の走行経路確保

【想定される対策】



≪①道路改修≫

- 病院入口の分散
- 交差点に右折レーンの設置
- 既存道路の拡幅 など

≪②雪対策≫

- 除雪及び排雪による交通の確保 など

≪③病院運営≫

- 予約システムの導入による来院時間の分散 など

≪①道路改修≫

【現 状】

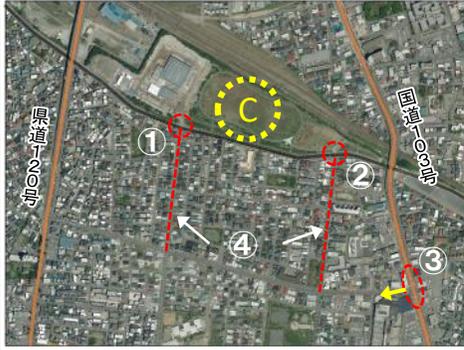
検討対象地	A案 旧青森県立商業高校及び県立中央病院敷地	B案 青森県総合運動公園	C案 青い森セントラルパーク	D案 浜田中央公園・県営スケート場周辺
利用形態	(未利用) 第1種住居地域 容積率200%、建蔽率60%	(陸上競技場、プール跡地) 第2種住居地域 容積率200%、建蔽率60%	(県管理区域：条例公園) 準工業地域 容積率200%、建蔽率60%	(市管理区域：都市公園(浜田中央公園)、 屋内スケート場) 準工業地域 容積率200%、建蔽率60%
平面図				

《参考》青森地区の主要渋滞箇所



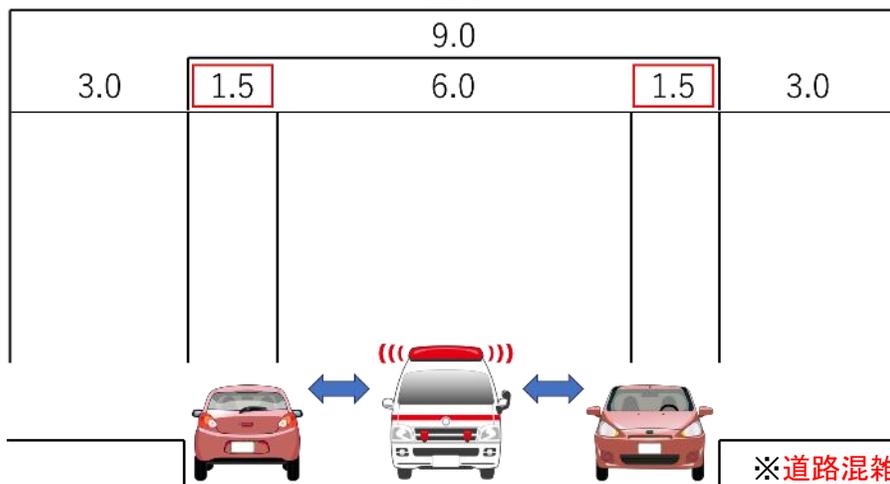
(令和3年度第1回青森県渋滞対策推進協議会資料より)

【対策】

検討対象地	A案 旧青森県立商業高校及び県立中央病院敷地	B案 青森県総合運動公園	C案 青い森セントラルパーク	D案 浜田中央公園・県営スケート場周辺
航空写真				
整備内容	<p>①、② 病院への入口を2カ所に分け、既存道路を拡幅する。</p>	<p>① 病院入口の交差点に右折レーンを設置する。</p> <p>② 主要渋滞箇所である浪館交差点に隣接し、前後区間に比べ幅員が狭い区間の道路幅員を拡幅する。</p> <p>③ 主要渋滞箇所である浪館交差点を改良する。</p>	<p>①、② 病院への入口を2カ所に分け、右折レーンを設置する。</p> <p>③ 交通量の多い国道103号からアクセス向上のために右折レーンを設置する。</p> <p>④ バスや緊急車両の通行を考慮し、必要な路線に対して、既存道路の車道幅員の拡幅を行う。</p>	<p>① 市内からのバスや緊急車両の通行を考慮し、必要な路線に対して、既存道路の車道幅員の拡幅を行う必要がある。</p> <p>② 災害時や域外からの緊急車両の通行を考慮し、仮にIC出口付近から病院敷地までの道路を設置することが考えられる。</p>
課題	<p>民有地の用地取得後の着工となるため、整備に時間を要する可能性がある。</p>	<p>民有地の用地取得後の着工となるため、整備に時間を要する可能性がある。</p>	<p>具体的に整備する右折レーンの長さや車道幅員の拡幅を行う箇所等の詳細については、交差点単位で実施する交通量調査等に基づいた分析により更に検討・設計する必要がある。</p> <p>また、東西道路は、今後、整備場所が決まった段階で実施する詳細なシミュレーションの結果に応じて必要な対策(右左折レーンの設置、車道幅員の拡幅)を検討することになる。</p>	<p>浜田中央公園敷地の活用の可否によっては、病院の出入り口をはじめ活用可能な道路に制約が出る可能性がある。</p> <p>当該対象地付近の国道7号BPは、青森県渋滞対策協議会において示されている主要渋滞箇所が近接していることから、渋滞対策の検討に当たっては、救急車両の動線の安全確保も含め、交通量調査等に基づいた分析により検討・設計する必要がある。</p> <p>民有地の用地取得の場合は、その後の着工となるため、整備に時間を要する可能性がある</p>

検討対象地	A案 旧青森県立商業高校及び県立中央病院敷地	B案 青森県総合運動公園	C案 青い森セントラルパーク	D案 浜田中央公園・県営スケート場周辺
[参考]周辺施設の影響	≪主な周辺施設≫ なし	≪主な周辺施設≫ ○県営野球場 ○県立美術館 ≪想定される対策≫ ○県営野球場 ・収容人員21,016人 ・駐車場1,429台（第1～第3駐車場） ○必要に応じ誘導員の配置 など ※近年の2,000人規模のイベントでは、問題となるような混雑は発生していない。	≪主な周辺施設≫ ○青森市総合体育館（アリーナ） ≪想定される対策≫ ○最大収容人数5,000人のうち、自家用車の利用は1,185台と推計。 ○青森市総合体育館に隣接して設置する300台の駐車場のほか、大会やイベント開催時は青い森セントラルパーク東西広場に900台分の臨時駐車場を確保しており、来場者が1箇所の駐車場に集中することなく分散して駐車できるようにしている。 ○催事開催にあたり、必要に応じて出入場時間の調整、誘導員の配置等により近隣道路の混雑対策を行う。 など	≪主な周辺施設≫ ○商業施設

≪道路拡幅のイメージ≫



※道路混雑時でも救急車両の走行経路確保

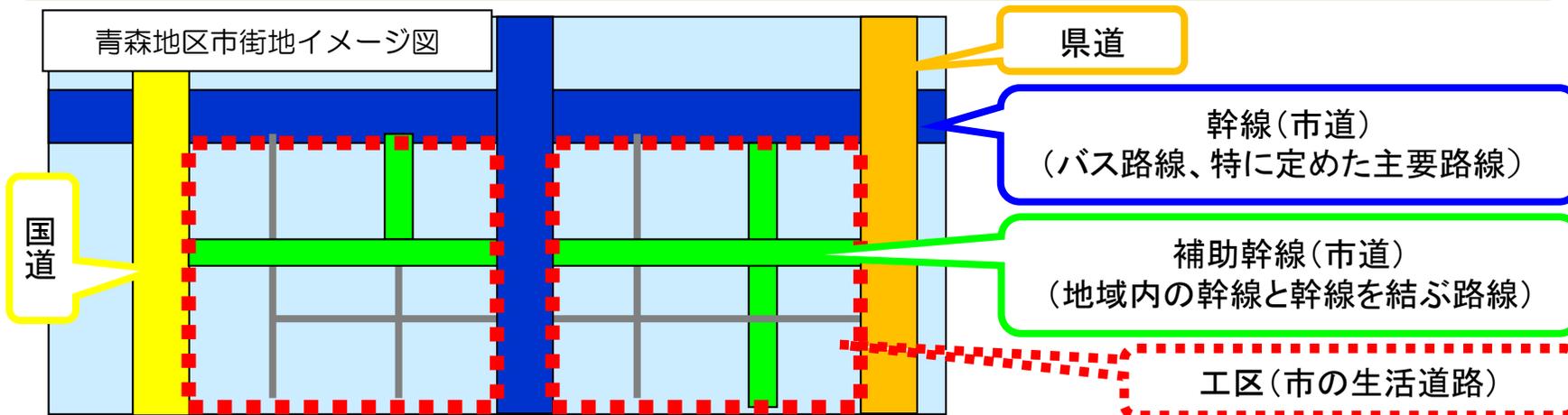
≪周辺施設との関連での混雑予想≫

区分	平日	土日祝
午前 (7:00~12:00)	病院来院者による混雑	イベント来場者や商業施設利用者による混雑
午後 (12:00~17:00)	病院来院者による混雑	イベント来場者や商業施設利用者による混雑
夜 (17:00~21:00)	イベント来場者や商業施設利用者による混雑	イベント来場者や商業施設利用者による混雑

《②雪対策》

除排雪の実施基準

除排雪作業は、国、県、市がそれぞれ出動基準を定め、除排雪を実施します。



※豪雪時等の異常な降雪時の場合は、**主要な路線を優先**とし、順次交通機能を確認します。

	道路分類	実施基準	除雪水準	
除雪	国道	降雪深が 5cm~10cm程度 になり、ひきつづき降雪が予測されるとき		
	県道	降雪量が 10cm以上 の場合、又は降雪量が 5cm程度 であっても降雪状況、気象通報等により 雪が降り続くことが予想 される場合や、地吹雪等により 交通に支障をおよぼすと判断 される場合		
	市道	幹線	降雪がおおむね 10cm以上 、かつ、 交通の確保が困難 と認められる場合。	除雪幅は、車線数(原則2車線以上)を確保できる幅員。 ※救急車や乗合バスが通行する路線は、 <u>その運行に支障がないように、交通の確保を図る。</u>
		補助幹線		
	工区	降雪がおおむね 15cm以上 、かつ、 交通の確保が困難 と認められる場合。	○道路幅員6.5m以上 小型車同士のすれ違いを可能にする。 ○道路幅員6.5m未満 救急車や消防車等の緊急車両が通行できる通行幅を確保。	

検討対象地周辺の除雪区分

市道の除雪区分

- 幹線
- 補助幹線
- (国・県の除雪道路)

A 旧青森県立商業高校および県立中央病院敷地



B 青森県総合運動公園



C 青い森セントラルパーク



D 浜田中央公園・県営スケート場周辺



令和4年12月 外部有識者の発言要旨《都市計画（まちづくり）》

【新病院がまちづくりに与える影響及び整備場所の要件】

- まちづくり、都市計画の観点から申し上げますと、できるだけ高次都市機能は中心部に近いところが望ましい。
- 新病院ができることにより、新たな人の流れが発生する。一般論として、多くの住民が利用する施設は、中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりが可能となる。
- 施設利用者の立場で考えると、アクセスが確保されているのであれば、郊外への整備は可能であるが、鉄道を引くなど新たなアクセスを確保しなくてはならないのであれば、現実的ではないのではないか。
- 災害時にも必要な機能を発揮できる病院をつくるのであれば、郊外でない方が周辺住民の役に立つことができる。

【郊外に新病院を整備することにより新たな人の流れをつくること】

- 日本の多くの地方都市は人口減少を前提として都市計画を考えており、青森市都市計画マスタープランでは、既に青森市が持っている様々な機能や拠点を区域として定め、何か新しい施設や機能を作る際は、これらの区域に誘導しようという考えの下、都市機能誘導区域や生活拠点区域を定めている。
- 新病院整備に当たっては、青森市都市計画マスタープランの考えに則るとともに、整合を図っていくことが望ましい。

【検討対象地に対する都市計画（まちづくり）の観点から将来に与える影響】

- 新病院の整備場所の周辺には、様々な種類、機能を持つ施設があった方がより人々の回遊が期待できる。その意味で考えると、A「旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地」と、C「青い森セントラルパーク」には既に大きなショッピングセンターがあり、加えて、C「青い森セントラルパーク」には、特徴的な機能を持つアリーナも建設中であり、人々の回遊が期待できると思われる。
- 新病院整備により、病院周辺に民間の医療関連施設の集積が進むことが予想され、人が集まる施設や機能が多ければ多いほど将来の街の活性化に繋がる。
- 青森市においては『「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくり』を推進しており、青森県においても同様の都市づくりを提案しているが、周辺地域の人口が多く、中心部に位置し、都市機能誘導区域であるC「青い森セントラルパーク」がまちづくりの方向性に沿った効果が得られると考えられる。加えて、県と市で青森操車場跡地新駅整備勉強会を実施しており、近くに鉄道が敷設されていることから潜在的な可能性もあると思われる。
- A「旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地」も、生活拠点区域として都市機能を誘導している地域であり、都市計画としては適していると考えられる。

令和4年12月 外部有識者の発言要旨《通院アクセス》

【病院へのアクセス手段についての考え】

- 病院は、高齢者や妊婦さんなどいわゆる交通弱者が多く利用する施設であることから公共交通であるバスが重要であり、県全体からのアクセスを考えると、バスだけではなく鉄道でのアクセスも考慮することが望ましい。バス路線は、道路運送法の改正により、利用ニーズに応じて運行を変動させることが容易になったことから、路線の増設はフレキシブルに対応できると考えられる。
- バスに関しては、現在のバス環境を考えてどこに新病院をつくるかを考えるよりは、新病院のバス環境をどんなサービスレベルにするかということ考えた方がよい。
- 病院は色々な方が利用する施設であることから、様々な交通手段(バスや鉄道といった公共交通のほか、自動車、自転車、徒歩)が選択可能であることを考える方がよい。

【新病院整備による周辺道路での混雑等の影響及び対策】

- 新病院の整備によって、周辺道路の利用状況が現状より増えることは容易に予想されるが、どのくらい混雑するのかは、患者などのデータを基に分析し、予測する方法が考えられる。予測するためには、現在の2つの病院の利用者がどのような交通手段をどのくらい利用しているのかといったデータに加え、検討対象地それぞれの周辺道路、道路容量、どのくらいの交通を捌ける道路なのかという条件も必要である。それらを基にシミュレーションを行い、どのくらいの影響が考えられるかを検討することになるが、交通量シミュレーションの専門家や道路交通関係の各機関などと連携して作業していくことが望ましい。

【検討対象地に対するアクセスについての考え】

- 3つの検討対象地は、いずれも幹線道路や高速道路に近いことから、アクセスは良いと考えられる。地理的に遠くなってしまうと、心理的に安心感や親近感を下げってしまうことから、多くの人から近くにあるという安心感を持てる場所が望ましいのではないかと。
- 自動車到達圏人口や圏域人口など公平性の観点などを考慮すると、C「青い森セントラルパーク」のポイントが高いと思われる。
- 自動車到達圏人口から、単純に街の端にあるより真ん中にあることが地理的に良く、多方向からアクセスできると考えられる。

地域住民との懇談でいただいた質疑や御意見《都市計画（まちづくり）・通院アクセス》

【都市計画(まちづくり)】

- 浜田中央公園は非常に利用する人も多く、朝晩散歩の方、グラウンドゴルフでも何でも非常に活用されている。お年寄りには散歩する場所がなくなる。
→浜田中央公園については、できるだけその機能は残すという大前提で取り組む。例えば、地下に駐車場を作って、上を公園のまま残すとか、低層で地上に駐車場を作り、その駐車場の上を緑化等で公園整備し、そこをスムーズに移動できるようにすることで実質的な公園機能を発揮させるなど、いろいろなやり方が考えられると思っている。
- 景観問題として、高層10階建てぐらいになるのではないかと予想しているが、それで山とか見えなくなるというのは住民としては嫌だなという思いはある。

【通院アクセス】

- よく言われている交通渋滞の問題等もある。それらを踏まえて、県の方、市の方、それから有識者の方々は、地域住民の意見を十分聞いていただいて検討していただきたいと思っている。
→候補地として選定された際には、統合新病院のメインとなる出入口を含む配置計画を策定し、周辺道路の交通への影響、道路確保を検討する過程で、詳細な検討をし、地域の方々に適時適切に情報を提供しながら進めていきたいと考えている。
- アクセス、それから全県のことを考えると、確かにこの浜田地区が一番交通の便がいいのではないかなと思う。
- 車を利用できない方がいる、公共交通機関を使う方、これはバスなどになってくると思うが、例えば新しく駅を作るなどがあったので、その辺も踏まえて公共交通機関でのアクセスは考えていただきたいと思う。
→病院がどこに決定したとしても、通院のためのルートや運行場所というのは、市の交通部あるいは、市外から来る方もバスで利用されてくる方もいるかもしれないので、そういったバス事業者に対し、病院の場所を踏まえた利便性の確保ということ、病院としてバス事業者に働きかけなければいけない、絶対やらなければならないことだと、常々思っている。
駅の整備については、現時点で言えることは、整備に要する時間とお金がかかりかかるといことである。これだけは事実であり、現時点でお答えするのはそこまでさせていただきたい。
- 冬は特に道が一車線になるような状況に当然なることを考えると、環状線はいいが、例えば旧ヨーカ堂の通りに関しては今の幅では渋滞になるのが目に見えているのではないかな。もう少し緩和策を、今以上に考えなければ本当に交通麻痺になってしまう。
→道路渋滞は、3検討対象地と浜田地区、それぞれにおいて100点の場所はないと思っている。その中で、どこに決まったとしても、道路渋滞については、今後場所が決定した際には、シミュレーションした上で必要な対策を検討していかなければならないことを大前提として考えている。
- 渋滞と交通事故、子どもたちの通学路確保も是非していただきたい。
→各道路管理者と連携し、渋滞対策や交通事故対策、通学路確保などに取り組んでいきたいと考えている。
- 雪の問題で一車線が確保できないときは両方混むかもしれないが、国・県の除雪体制は悪くないように感じている。

救急搬送

《救急搬送経路選択の考え方》

- 『安全・確実』を前提に、狭隘な道路を縫うような走行やUターンは行わないようにしている
- 傷病者への負担を考え、幅の広い道路や平坦な道路を選択する(できるだけ踏切や雪道のマンホール段差がある道路は選択しない)
- 道路の渋滞状況を考慮し、最短距離ではなく最短時間を考えた経路を選択する

想定される救急搬送経路

※青森地域広域事務組合消防本部調べ

※青森地域広域事務組合消防本部調べ

※両側複数車線の道路は赤色、両側一車線又は片側一車線+片側二車線の道路は緑色とした。

A案 旧青森県立商業高校及び県立中央病院敷地



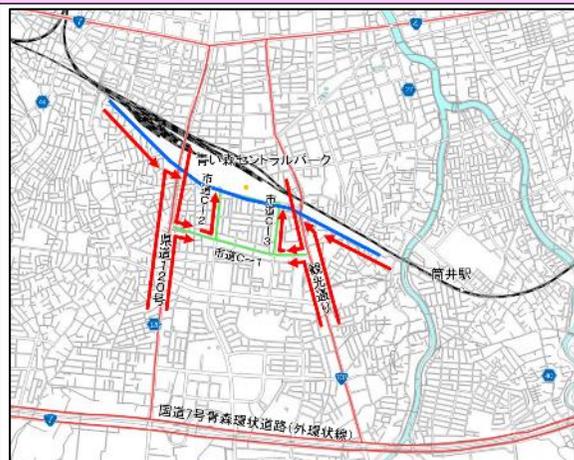
- 【Aへのアクセス】
 東北側：県道259号
 東側：国道4号→県道259号
 西側：国道4号→市道A-3
 →県道259号
 西南側：①市道A-1→国道4号
 →市道A-3→県道259号、
 ②市道A-2→国道4号
 →県道259号

B案 青森県総合運動公園



- 【Bへのアクセス】
 東北側：(国道7号→)浪館通り
 →市道B-2
 東側：金沢小学校通り→市道B-2
 東南側：外環状線→市道B-2
 西北側：①(国道7号→)内環状線
 →市道B-1、
 ②(国道7号→)内環状線
 →市道B-2
 西側：外環状線→市道B-1

C案 青い森セントラルパーク



- 【Cへのアクセス】
 東北側：(国道4号→)観光通り
 →市道C-1→市道C-3
 東南側：(外環状線→)観光通り
 →市道C-1→市道C-3
 西北側：(国道7号→)県道120号
 →市道C-1→市道C-2
 西南側：(外環状線→)県道120号
 →市道C-1→市道C-2

D案 浜田中央公園・県営スケート場周辺



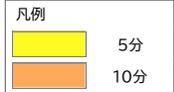
- 【Dへのアクセス】
 東北側：①(国道4号→)観光通り
 →市道D-1、
 ②(国道4号→)観光通り
 →市道D-1→市道D-2
 東側：外環状線→高架下
 →外環状線
 東南側：観光通り→外環状線
 →高架下→外環状線
 西北側：①(国道7号→)県道120号
 →市道D-3、
 ②(国道7号→)県道120号
 →外環状線
 西側：外環状線
 西南側：県道120号→外環状線

青森市における救急病院等の配置

(対象:救急搬送件数が年間50件以上、令和2年度病床機能報告)



⑧救急車到達圏人口(5分・10分)



検討対象地		救急車5分 到達圏人口	救急車10分 到達圏人口
A	旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	47,568	120,358
B	青森県総合運動公園	56,273	143,130
C	青い森セントラルパーク	78,225	182,747
D	浜田中央公園・県営スケート場周辺	58,360	184,145
(参考)外環状線周辺エリア		35,317～ 55,843	100,303～ 164,423

《救急車到達時間短縮の可能性について(現場急行支援システム)》

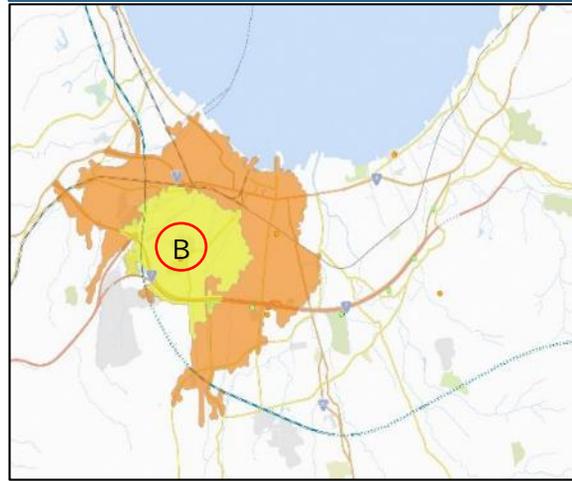
- ▶ 現在県立中央病院への救急搬送では、救命率の向上や緊急走行中の交差点での交通事故防止を図るため、青森自動車道救急車退出路から県病までの約3.3キロメートルの区間において、光ビーコンを活用して救急車の進行方向の信号を「青」に切り替える「現場急行支援システム」を導入していることから、整備候補地決定後に県警察本部など関係機関とシステム導入に向けて協議していきたいと考えている。



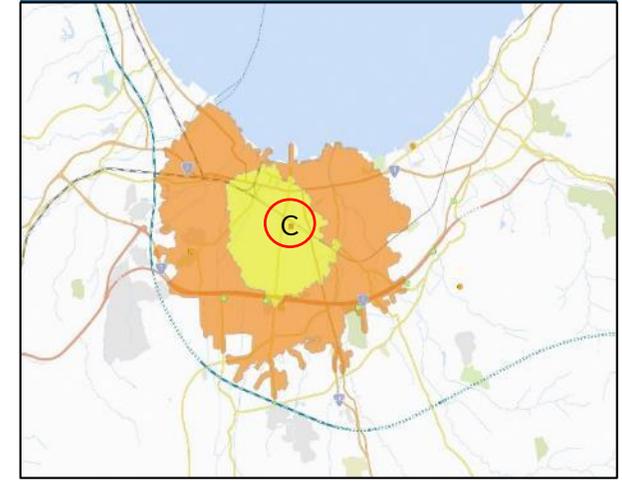
A 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地



B 青森県総合運動公園



C 青い森セントラルパーク



※到達までの設定速度について

・救急車30.8Km/h: R3.12月～R4.3月(冬期間)における救急車平均時速で推計(現場から青森市民病院・青森県立中央病院・青森慈恵会病院まで)(青森地域広域事務組合消防本部調べ)

※人口30万人程度の地域消防本部の現発から病院到着の平均所要時間約10分(令和3年版救急・救助の現況) 入電から医師引継まで30分以内で可能となる時間約5分

令和4年12月 外部有識者の発言要旨〈救急搬送〉

【救急搬送の観点からの課題及び新病院整備場所として望ましい条件】

- 救急活動業務は、傷病者の緊急度や重症度に応じて、適切な救命処置を施し、安全かつ迅速に医療機関へ搬送することが重要であることから、走行の支障となるような、渋滞や道路狭隘による遅延、路面の凹凸などの解消が望まれる。特に冬期間はこのような課題が多く挙げられる。また、**病院周辺に信号機のある交差点が多く存在することで、緊急走行中の救急自動車の一時停止が頻発し、交通事故の発生のリスクや傷病者に与える振動等のほか、搬送にも時間を要する。**
- 救急搬送の観点から新病院整備場所として望ましい条件としては、救急自動車の走行時間の短縮や、傷病者の安静を確保した状態で搬送するため、十分な道路幅員を確保することや、傷病者の負担にならないような平坦な路面、また、冬期間における確実な除排雪による搬送経路の確保ができることなどが望ましい。また、現場到着時間、搬送時間の短縮のほか、交通事故発生リスクを軽減する信号機を制御できるシステムの導入なども望ましい。

【検討対象地に対する緊急搬送の観点での考え】

- 救急搬送の観点で考えた場合、**中心に位置することで東西南北からアクセスでき、医療機関収容までの時間が短縮され、救命率の向上が期待できる。**
- A「旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地」は、新病院を整備した場合には、**敷地北側の県道259号及び西側の赤川沿いの道路からの進入が考えられるが、渋滞等を解消するため、当該道路の拡幅の対策が必要と考えられる。**
- B「青森県総合運動公園」は、東西南北からアクセス可能だが、**北側の県道44号浪館通りには鉄道線路が2ヶ所位置しているほか、道路の幅員も十分ではなく、慢性的に渋滞が発生している地域**である。加えて、**東側の金沢小学校通りも渋滞が発生しているほか、道路の幅員が十分とは言えないことから、それらの道路の拡幅など対策が必要と考えられる。**
- C「青い森セントラルパーク」は、主に南側からの進入となるが、そこに至る**県道120号中央大橋や、国道103号観光通りから比較的スムーズな搬送経路を確保できると考えられる。**新病院の整備によって、**中央大橋や観光通りが混雑する可能性があるため、観光通りの方からスムーズに右折するための改善や、幹線道路から敷地までの道路の幅員が十分とは言えず、また冬期間においては、確実な除排雪による搬送経路の確保などの対策が必要と考えられる。**

地域住民との懇談でいただいた質疑や御意見〈救急搬送〉

【救急搬送】

- 両病院合わせると年間に救急車が約6,000回ぐらい入ってくるという話であり、1日17、8台から20台近い救急車がこのまちを通るわけである。もしそれが本当だとすれば、昼はいいが夜は安心して眠れなくなるのではないかなという心配をしていた。
→救急車のサイレンについては、夜間や住宅街では、そのサイレンの音の調整、弱モードや中モードへの切り替えなど音を調整するというやり方を消防の方で行っていると伺っている。

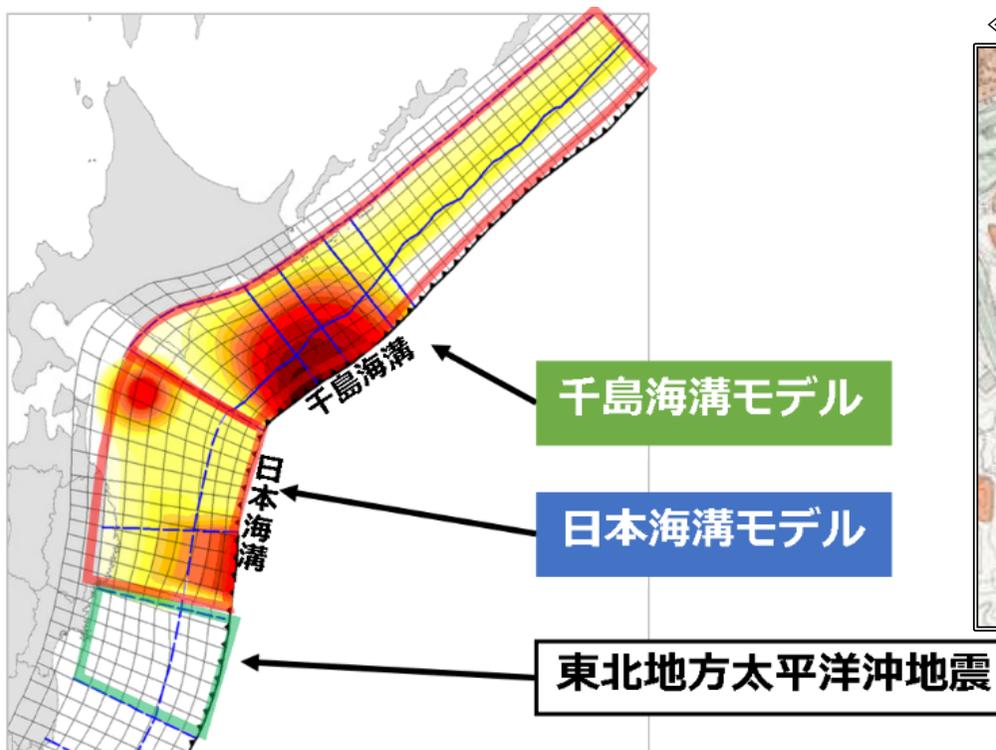
災害関連

(地震・津波・洪水)

①地震について

◆日本海溝地震（海溝型地震）

- 岩手県沖から北海道日高地方の沖合で発生する海溝型地震
- 300～400年の周期で発生
- 前回から既に400年程度経過しており、巨大地震の発生が切迫している

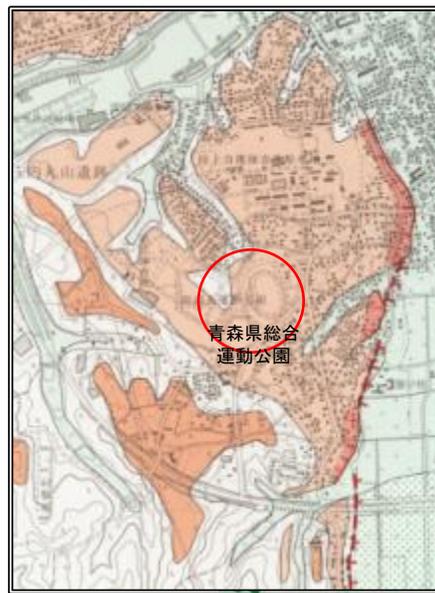


◆入内断層地震（内陸直下型地震）

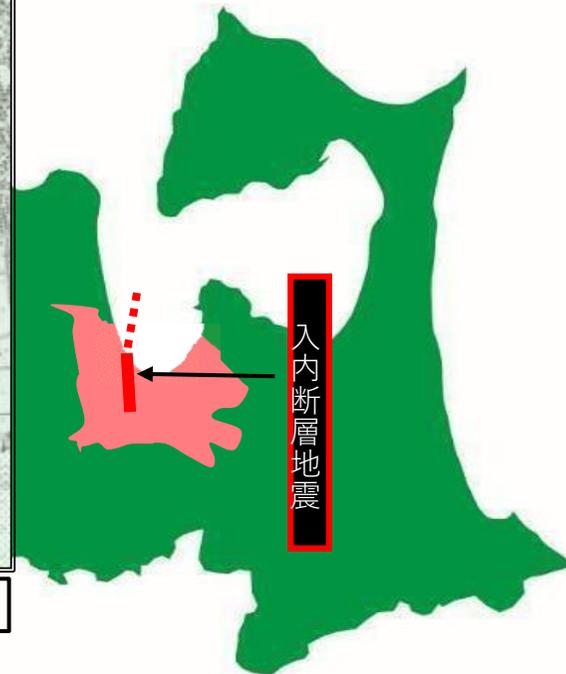
- 青森市入内から北方沖の青森湾にかけて分布する活断層
- 地震発生確率は30年以内に0.5%～1%
- 発生確率は「やや高いグループ」

- ◆地震調査委員会（国）の評価
3%以上：高いグループ
0.1～3%未満：やや高いグループ

《入内断層図面》



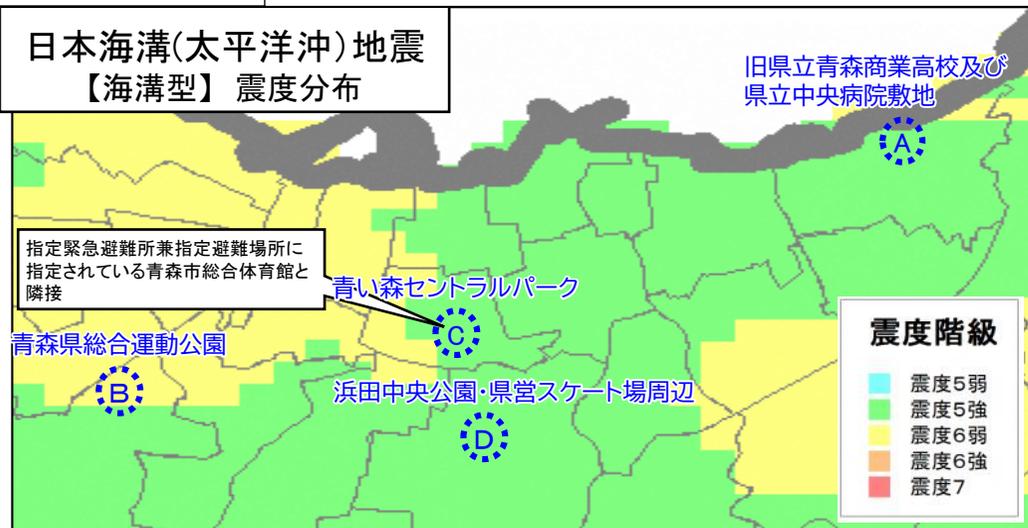
出典：国土交通省HP



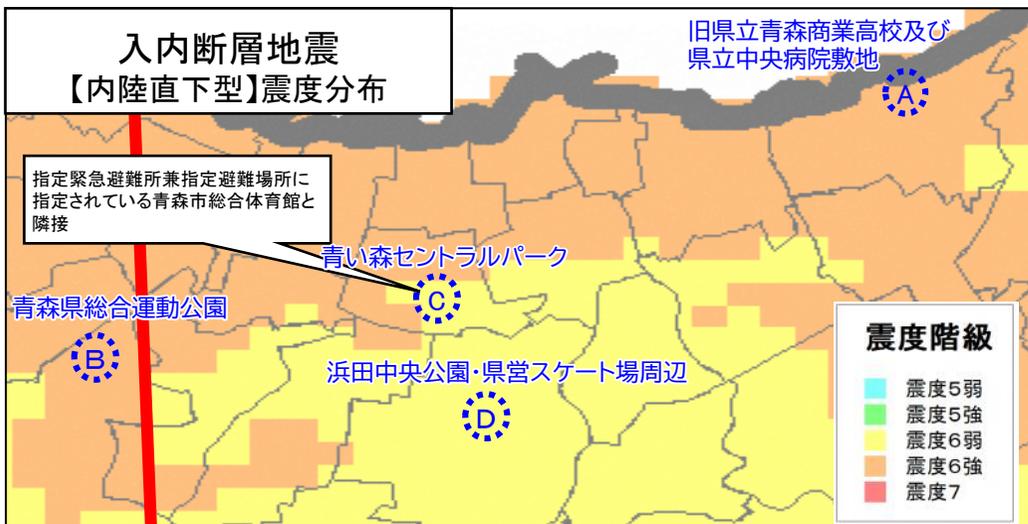
①地震

- ▶ 青森県総合運動公園、青い森セントラルパーク、浜田中央公園、県営スケート場は、地震時における指定緊急避難場所に指定。
- ▶ 県営スケート場は指定避難所に指定。
- ▶ 県営スケート場は、災害時の1次物資拠点に指定。
- ▶ サンドームは、大規模災害時の遺体安置所として確保。

日本海溝(太平洋沖)地震 【海溝型】震度分布



入内断層地震 【内陸直下型】震度分布



【被災想定地】

全検討対象地

検討対象地	被災想定	
	日本海溝(太平洋沖)地震	入内断層地震
	最大震度	最大震度
A 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	震度5強	震度6強
B 青森県総合運動公園	震度6弱	震度6強
C 青い森セントラルパーク	震度5強	震度6弱
D 浜田中央公園・県営スケート場周辺	震度5強	震度6弱

青森市災害被害想定調査報告書より

※30年以内の地震発生確率

- ・東北地方太平洋沖：ほぼ0% (M9.0程度)
- ・青森湾西岸断層帯(入内断層)：0.5～1% (M7.3程度)

政府地震調査研究推進本部HPより

《令和4年12月 外部有識者からの主な意見》

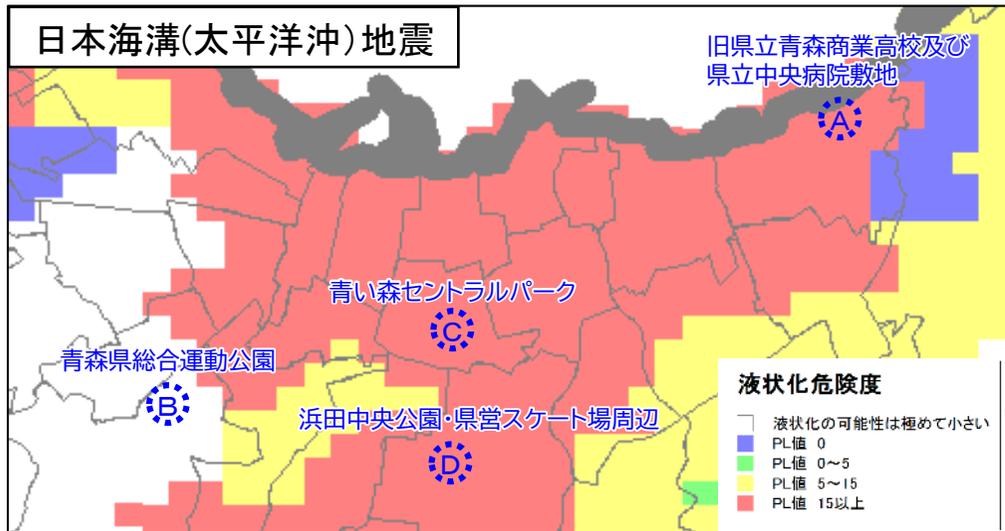
- ・想定されている震度6クラスの地震の場合、**現行の耐震基準を満たせば、躯体には影響ない**という判断はできる。
- ・新病院は災害拠点病院として災害時でも継続して医療提供が求められることを踏まえると、**免震構造という対策を講じるにしても、整備場所としては現在判明している断層など危険性のある場所からなるべく離れるなど、安全性を考慮する必要があります。**
- ・地震は、広域的に被害が発生するので、**どの場所であっても、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定すべきである。**

《想定される災害対策》 令和4年12月 外部有識者の発言要旨より

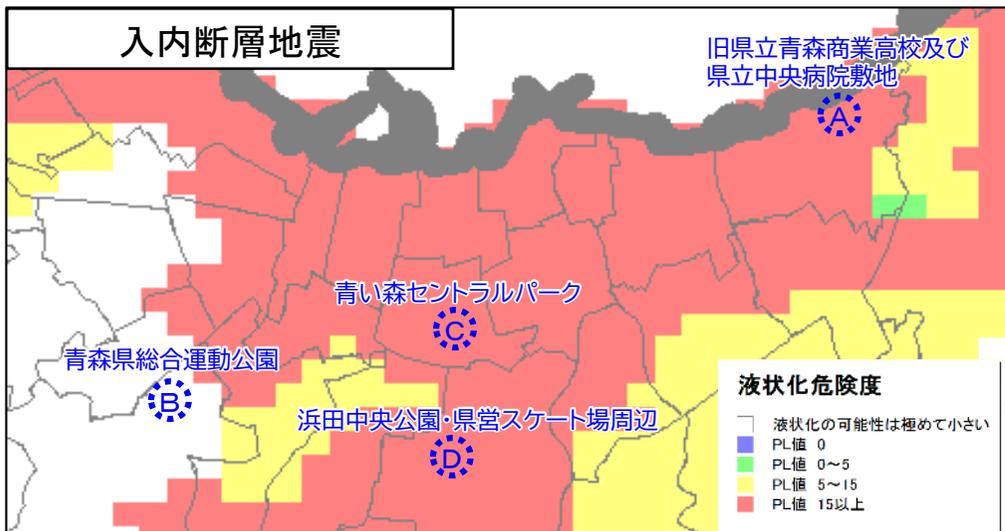
- 【ハード面】 免震構造対策、近隣建築物等との距離やアクセス道路の幅の確保
- 【ソフト面】 物資や医療従事者等の確保

①地震(参考:液状化)

日本海溝(太平洋沖)地震



入内断層地震



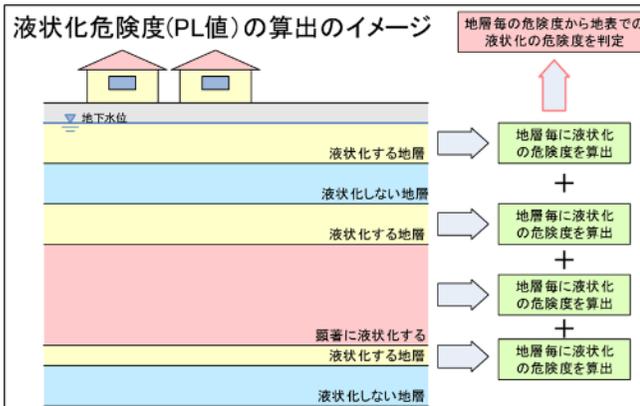
【被災想定地】

検討対象地		被災想定	
		日本海溝(太平洋沖)地震 最大値	入内断層地震 最大値
A	旧県立青森商業高校及び 県立中央病院敷地	PL値 21.65	PL値 33.33
B	青森県総合運動公園	PL値 —	PL値 —
C	青い森セントラルパーク	PL値 21.02	PL値 24.3
D	浜田中央公園・県営スケート 場周辺	PL値 24.82	PL値 31.09

青森市災害被害想定調査報告書より

PL値	液状化危険度
0	液状化の危険性が極めて低い
0~5	液状化危険性は低い
5~15	液状化危険性が高い
15以上	液状化危険性が極めて高い

液状化危険度(PL値)の算出のイメージ



《想定される災害対策》

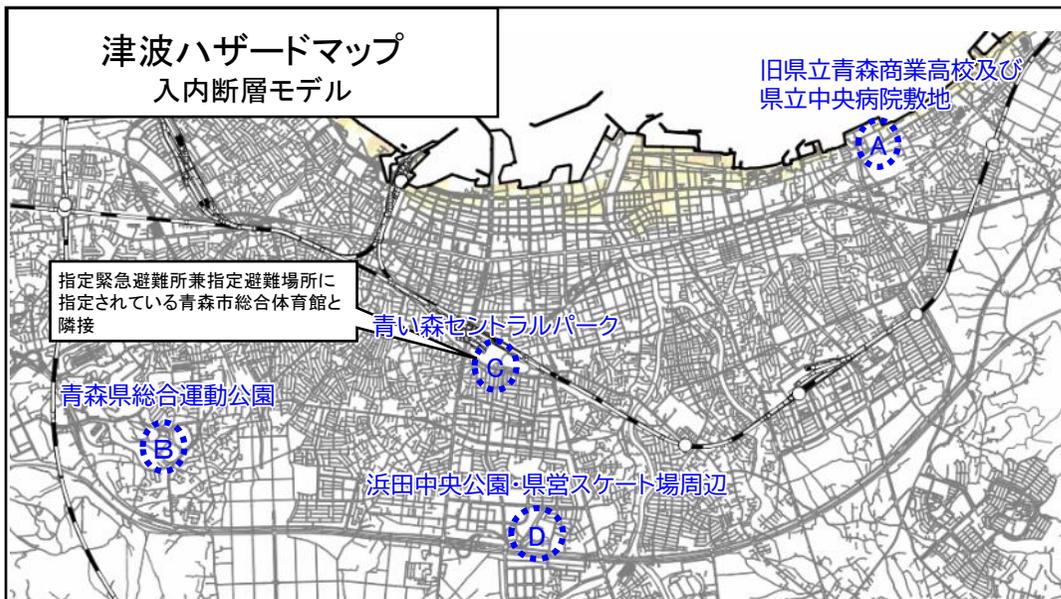
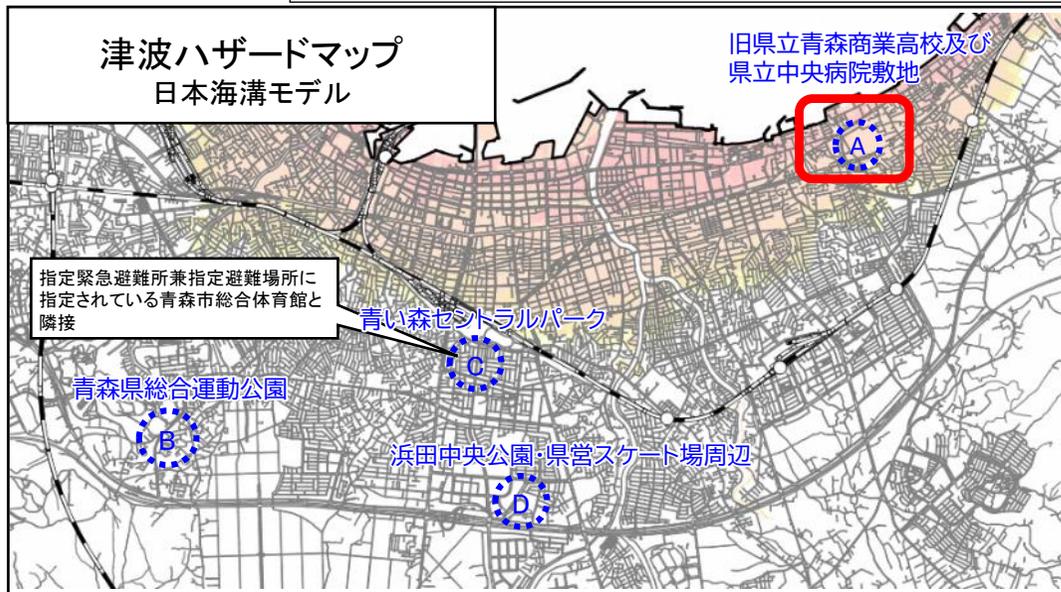
病院下部及び敷地内の必要箇所液状化対策(砂杭等の地盤改良)

②津波について

地震モデル	日本海溝モデル 海溝型地震	入内断層モデル 内陸直下型地震
震源域		
地震の規模	マグニチュード 9.1	マグニチュード 6.7
津波の影響	津波の到達が……………遅い 第一波到達時間 97分 津波の水位が…………… 高い 海岸線の最大津波水位 5.4m 津波の浸水域が…………… 広い 浸水面積 33.0km²	津波の到達が…………… 早い 第一波到達時間 2分 津波の水位が……………低い 海岸線の最大津波水位 3.7m 津波の浸水域が……………狭い 浸水面積 2.8km²

②津波

- 青森県総合運動公園、青い森セントラルパーク、浜田中央公園、県営スケート場は、津波時における指定緊急避難場所に指定。
- 県営スケート場は指定避難所に指定。
- 県営スケート場は、災害時の1次物資拠点に指定。
- サンドームは、大規模災害時の遺体安置所として確保。

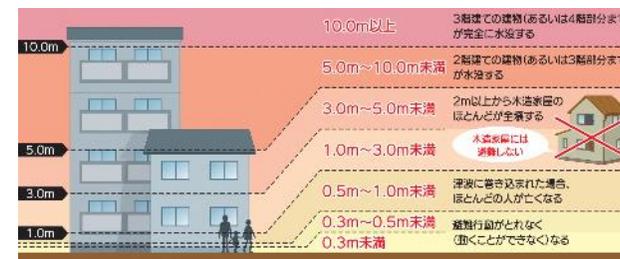


【被災想定地】

A 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地

日本海溝モデルでは、津波浸水深3.0m～5.0m未満
※当該箇所の最大水位は4.4m

検討対象地	被災想定	
	建物(病院)	周辺道路
A旧県立青森商業高校及び 県立中央病院敷地	有 水位4.4m	浸水



青森市津波ハザードマップより

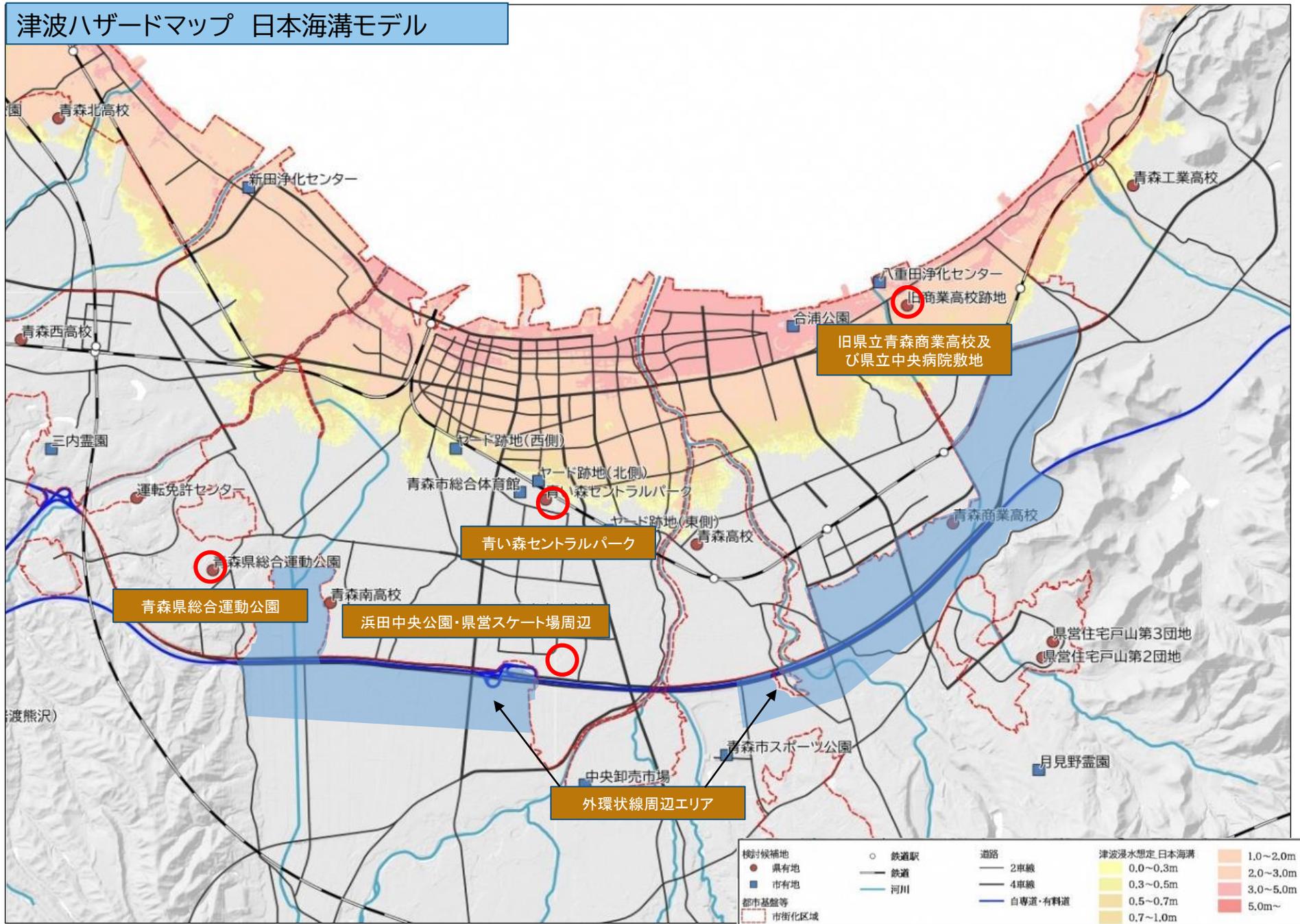
《令和4年12月 外部有識者からの主な意見》

- 津波は建物への浸水だけではなく、**押し流された船や自動車などが衝突し、建物などを破壊する**といった影響も考えられる。
- 技術的な対策を講じるならば、**防潮堤などの方法が考えられるが**、その分余分にコストがかかる。
- 津波により広域的に被害が発生するので、**建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定すべき**。
- 仮に施設機能が維持されても、**物資の搬入やスタッフの交替要員の受入れルートの確保など運営体制の維持が難しい**と思われるので、**できれば津波が想定される場所は避けるべき**と考える。

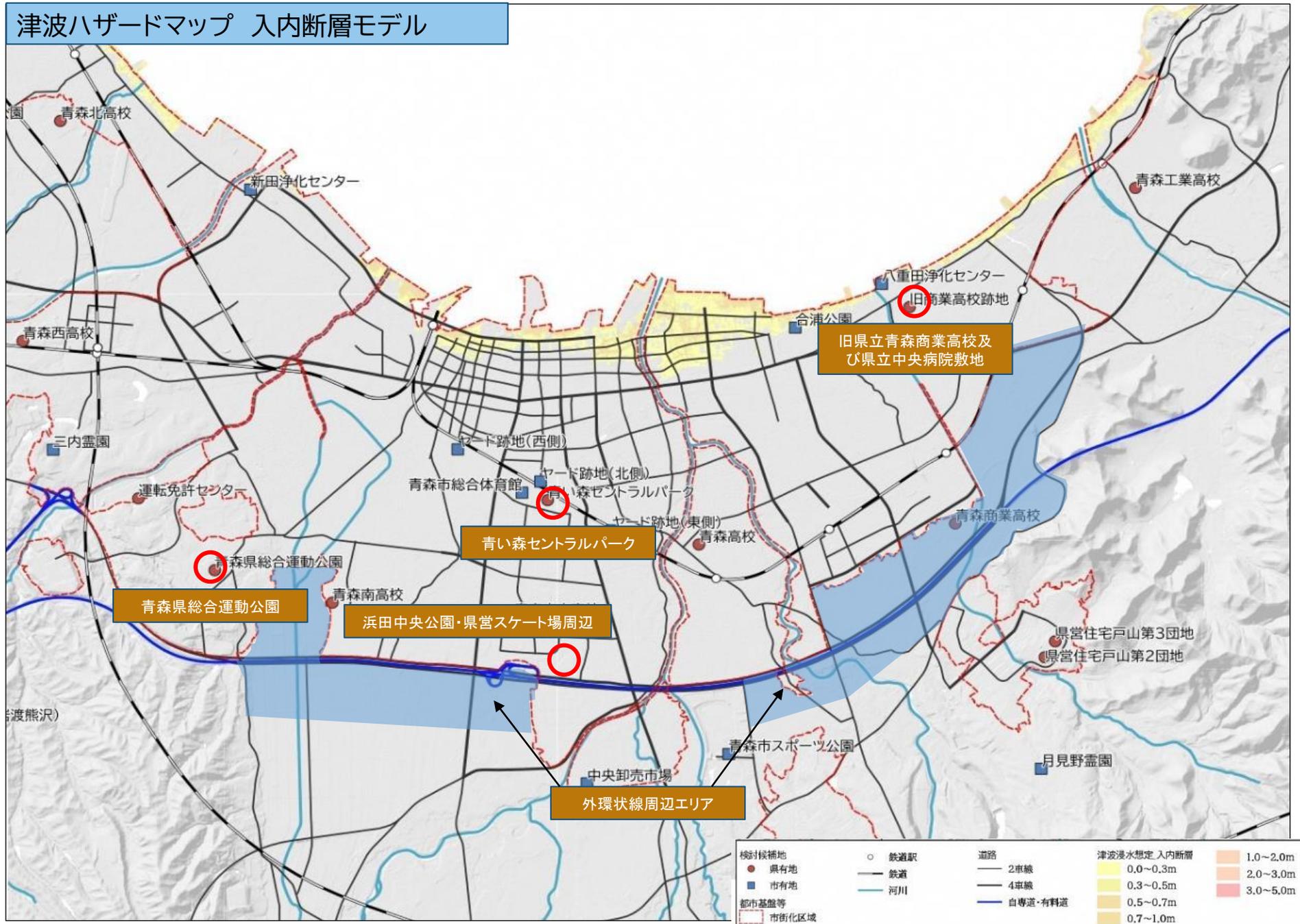
《想定される災害対策》 令和4年12月 外部有識者の発言要旨より

- 【ハード面】防潮堤の設置など
- 【ソフト面】物資や医療従事者等の確保

津波ハザードマップ 日本海溝モデル



津波ハザードマップ 入内断層モデル



③洪水について

水害対応の考え方(想定しうる最大規模降雨への対応)

これまで 堤防等を設計する規模の降雨しか想定していない

現況の堤防等の能力の規模

堤防等設計の計画の規模

計画規模

例) 堤川・駒込川の場合
100年に1回程度降る雨を対象

大雨等の規模

命と財産を守るための
施設整備

今後 想定し得る最大規模の降雨で、命を守るための検討を実施！！

現況の堤防等の能力の規模

堤防等設計の計画の規模

想定し得る最大規模

想定最大規模

例) 堤川・駒込川の場合
100年に1回程度降る雨を対象

大雨等の規模

命と財産を守るための
施設整備

命を守ることを最重要課題と
して取り組む

命を守ること(避難行動)を優先とするため、
被害が最大となるよう、計算条件を設定

【青森市内の施設整備の例】
駒込ダム建設事業(県)
※概ね100年に1回発生すると予想される規模の洪水に対して被害を防ぐ(駒込ダムパンフレットより)

1,000年に1回程度発生すると予想される降雨量
⇒浸水範囲等を洪水ハザードマップに反映

※国土交通省資料を元に青森市作成

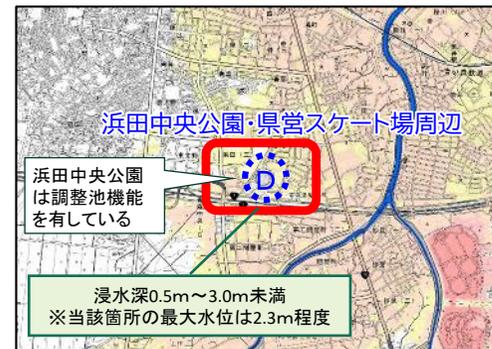
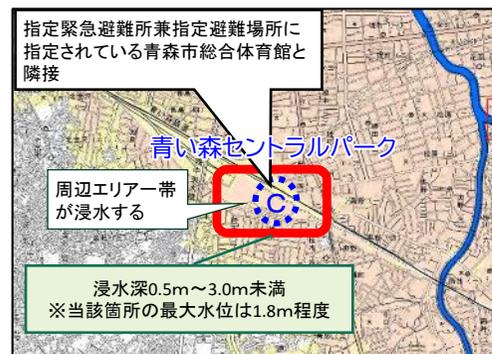
③洪水

- 青森県総合運動公園、浜田中央公園、県営スケート場は、洪水時における指定緊急避難場所に指定。
- 県営スケート場は指定避難所に指定。
- 県営スケート場は、災害時の1次物資拠点に指定。
- サンドームは、大規模災害時の遺体安置所として確保。

洪水浸水想定区域図 (計画規模)



洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)



【被災想定地】

想定最大規模では、A、C、D

検討対象地	被災想定	
	建物(病院)	周辺道路
A 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	一部有 最大水位0.8m程度	一部浸水
C 青い森セントラルパーク	有 最大水位1.8m程度	浸水
D 浜田中央公園・県営スケート場周辺	一部有 最大水位2.3m程度	一部浸水※

A:青森市洪水ハザードマップ及び国土交通省地域別浸水シミュレーション検索システムより
C、D:共同経営・統合新病院に係る整備場所の比較検討資料P8(青森県作成)より

※代替機能が整備され、すべての敷地が活用可能な場合

≪令和4年12月 外部有識者からの主な意見≫

- 洪水は地震や津波などと違い、多くの傷病者が災害拠点病院での診療を必要とすることは想定しにくい。
- 0.8m程度であれば、土地を嵩上げすることで浸水を防ぐことは技術的に可能である。
- 1m程度の浸水がある場合でも、備えをしておくことで災害拠点病院として機能を維持することは可能である。

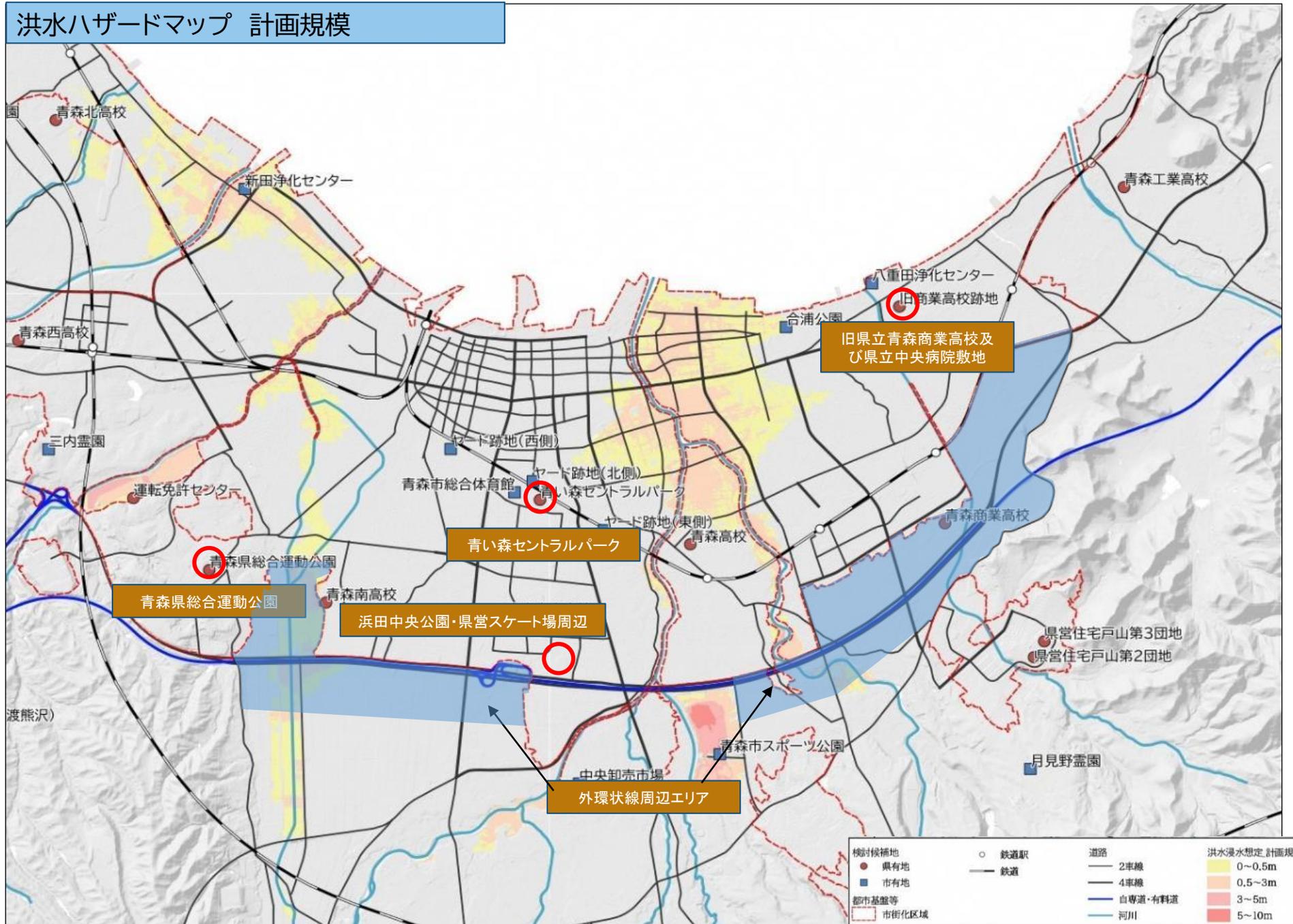
≪第1回検討会議での有識者からの主な意見≫

- 近年は内水氾濫や局地的豪雨などで、川の氾濫に限らず、どこでも浸水被害は起こってくる状態であるので、この洪水のハザードマップを外れていればそれで良いかというわけではない。
- ハザードマップで分かるリスクについては、しっかり備えるというのは当たり前。トータル的に考えた場合、色々なリスクに対してコントロールされている状態が最終的にできていけば良いのではないかと。

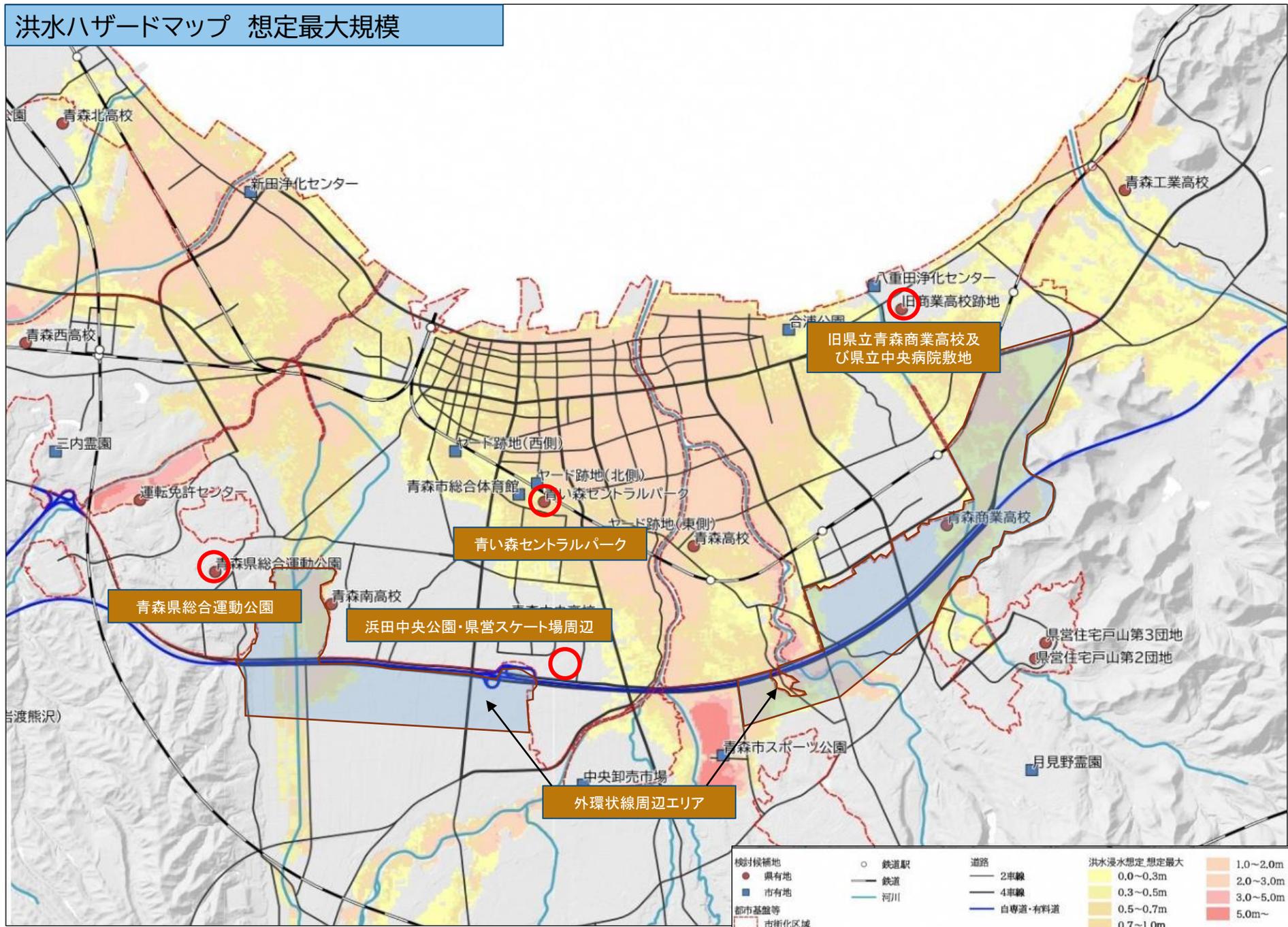
≪想定される災害対策≫ 令和4年12月 外部有識者の発言要旨より

- 【ハード面】土地の嵩上げ、フロア構成における安全策(地階を設けないなど)
- 【ソフト面】物資や医療従事者等の確保

洪水ハザードマップ 計画規模



洪水ハザードマップ 想定最大規模



地域住民との懇談でいただいた質疑や御意見《災害関連》

【災害関連】

○浜田中央公園は調整池になっている。その地下に施設を作ることや駐車場を作ることなどについては、技術的にはお金をかければいくらでもできるだろうがやめた方がいいと思う。

→調整池については、公園をどのように整備するのかまだ決まっていないため、具体的には示せないが、整備アドバイザーからはいくつかの提案を受けており、整備は可能であるということは聞いていることから、適切な段階でお示ししたいと思っている。

○この地区は地盤沈下の問題があると思うのでその辺の対策やどれくらいの規模になるか分からないが日照権の問題もある。

→この地区は地盤が悪いと一般的に言われており、地盤の問題は、病院の地盤の問題、近隣への地盤の影響の問題の2つがあると思っている。

いずれにしても地質調査については、設計の際に実施したいと考えている。

近隣への地盤沈下の影響についても、県病を作った際に、近隣の家が傾いたなどといった問題があったことを踏まえ、技術的に対応したいと考えており、その辺は専門家と連携しながら最大限の対応をしていきたいと考えている。

日照権の問題については、法律上問題とならないよう、影響を受けるエリアの皆様にはいろいろ説明して対応していきたい。

いずれにしても影響のある方には、丁寧かつ真摯に対応したい。

地域住民との懇談でいただいた質疑や御意見《その他》

【その他】

- 説明や質問要望事項が多く出たので、これを漏らさず取り上げて、県と市が協調して、青森市民、県民のためになるような病院を作っていただきたい。
→これから検討を進めるにあたり、本日の皆様からいただいたご意見、課題については、全て「浜田中央公園・県営スケート場周辺」(案)に対して、解決しなければならない課題だと受け止めていかなければならないと考えている。
- 故意なパフォーマンスで終わらないように、次世代の若い人たちが住みやすい青森県にしてよかったと思うためにも、もう少し若い人の声を聞いていただきたい。
→本日の皆様からいただいたご意見、さらには今後こういう話があったということであれば、市民病院事務局に追加で提供していただければ私どもの方で本日のご意見に加えていきたい。
- 決して反対というわけではないが、最初に新聞で見たときは本当にびっくりした。県でもある程度、浜田地区も検討していたように聞こえる。有識者会議になぜ最初から4か所を提示しなかったのか。
→県と市が共同で設置する有識者会議において、医療的観点から交通アクセス、渋滞問題は非常に大きな問題であり、特にセントラルパークエリアについては、交通渋滞が非常に厳しいというご意見を委員の方々からいただいているほか、そのような課題をデータで再度整理した上で、外環状線周辺エリアで候補地となりうる場所がないかというご意見があったことから、セントラルパークとの様々な比較をした資料の整理を1か月ほどかけて行ったもの。
- 県の方と市の方で色々切磋琢磨してやっているのだろうと思うが、市民・県民のため命を守っていただくように協力して、早く病院ができるようお願いしたい。
→皆様からいただいた意見を踏まえて、それを議員の皆様にご伝え、どう解決できるのか、どう考えていけるのか、そのことを踏まえながら、どういう検討をし、候補地を選んでいけばいいのか、そういったことを県と共に検討していきたいと考えているので、今後ともご理解、御協力をよろしく願いたい。
- サンドームのような多くの市民に活用されている施設を県病の敷地にするなど、市民としてはとんでもないことだと思っている。冬期間、市内の児童生徒、それから中高年、高齢者の方、途中で工事するので閉鎖とならないようきちんと先を見据えて計画するなりしていただきたい。
→サンドームは現在もかなり利用率が高いということ踏まえ、利用のできない期間をゼロに、あるいはできるだけ短くできるような計画を策定したいと考えている。
- セントラルパークに移すということであるが、その期間というのは何年もかかる、施設を利用する立場から、果たしてその期間がどのようなものなのかという大きな疑問がある。
→当然、サンドームの利用者が非常に多いことへの配慮をすべきだと思っており、市からも強く言われている。
今のサンドームの解体をできるだけ遅らせて、その間に、例えばセントラルパークにサンドームの機能を有する施設を作る。その上で今のサンドームを解体し、あまり工期のかからない施設を今の場所に作る。例えば、患者用の駐車場は病院本体のそばにあるべきだと考え、サンドームの場所にそれほど工期のかからない立体駐車場を作ることを計画し解体を遅らせることはできる。
その間にサンドームを完成させてしまえば一番いいのだが、できるだけサンドームを他の場所に作るとすれば、サンドームの建設を先行させ、それで利用者が利用できない期間をなくすることができれば一番良いと考える。できるだけ短くしたいということも考えている。それが整備方針の一つとして当然位置付けられることになると思う。
- サンドームの移転については、今利用している方も生活が変わるわけであり、今まで週に何回か健康作りをしていたという方が、もう移転してしまえば通えなくなる。
→サンドームの移転において、利用している方の生活が変わることへの対策については、様々な観点から検討する余地があるのだろうと思っている。
県、市とも連携協力して、様々な考えていければ良いと思っている。
公園の機能を町会の皆様とともに高めていければという大前提の上で、様々なご意見等があれば、整備計画に反映していきたいという思いである。

統合新病院の整備に望ましい場所について（テーマごと/論点整理）

区分	論点	青森市統合新病院整備場所等検討会議					
		旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	青森県総合運動公園	青い森セントラルパーク	浜田中央公園・県営スケート場周辺	外環状線周辺エリア	
まちづくり 通院アクセス	都市計画との整合	青森市都市計画マスタープランでは、既に青森市が持っている様々な機能や拠点を区域として定め、何か新しい施設や機能を作る際は、これらの区域に誘導しようという考えの下、都市機能誘導区域等を定めている。 新病院整備に当たっては、青森市都市計画マスタープランの考えに則るとともに、整合を図っていくことが望ましい。	・生活拠点区域に入っており、青森市都市計画マスタープランに沿っている。	・地区拠点地域ではなく、青森市が目指す都市計画に合致していない。	・都市機能誘導区域に入っており、青森市都市計画マスタープランに沿っている。	・生活拠点区域ということで医療施設立地の適地ということである。	・地区拠点地域ではなく、青森市が目指す都市計画に合致していない。
	まちづくりに与える影響	新病院ができることにより、新たな人の流れが発生する。一般論として、多くの住民が利用する施設は、中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりが可能となる。	・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。 ・県立中央病院が移転すると東側の衰退が懸念される。	・人口減少が進む中で、都市機能の分散化を引き起こすことは、都市全体の活力の空洞化を生むリスクがある。 ・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。	・郊外よりは中心部を起点にした方が患者の利便性向上や青森市の活性化につながる。 ・新駅がなければ中心部の活性化は難しい。 ・南北の動線は必須なので検討が必要。	・このエリアは、旧イトーヨーカ堂周辺を中心に商業施設が張りつき住宅も増えている人気のエリア。そこに病院まで整備するのはバランスを欠くのではないかと懸念される。	・人口減少が進む中で、都市機能の分散化を引き起こすことは、都市全体の活力の空洞化を生むリスクがある。 ・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。
	圏域人口・移動時間	自動車到達圏人口から、単純に街の端にあるより真ん中にあることが地理的に良く、多方向からアクセスすることができる。	・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 ・市の中心部から東側に寄っており、移動距離や時間において公平性が確保されない。	・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。	・青森市の真ん中にあり圏域人口が一番多い。	・南の端ではあるが、圏域人口を比べるとセントラルパークとの差は小さい。 ・環状7号バイパスや高速道路に近く、市外からのアクセスに優れる。	・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 ・最も利便性が高い青森中央IC付近においても、圏域人口などすべての数値で青い森セントラルパークに比べて劣っている。
	道路状況（渋滞対策）	新病院の整備によって、周辺道路の利用状況が現状より増えることは容易に予想されるが、どのくらい混雑するのかわ、患者などのデータを基に交通量シミュレーションを行い、どのくらいの影響が考えられるかを検討する必要がある。	・現状と同じアクセスである。 ・現在の県立中央病院を基点として、さまざま形態での交通網ができています。	・踏切があるので非常に渋滞する場所。道路拡幅に当たっても民有地の用地取得が必要となるので整備に時間を要する。 ・浪館通り自体がそんなに良い交通状況ではなく、国道7号青森環状道路もそれなりに渋滞している。	・新駅整備が実現すれば、道路渋滞緩和の観点からも有益。 ・渋滞を指摘されており、道路拡幅といった対策が必要。 ・線路をまたぎ真っ直ぐの道路を作ることができればかなり便利になる。	・県営スケート場付近の道路は狭く、冬場に雪が積もると渋滞が発生する。 ・旧イトーヨーカ堂周辺の道路について、すこく混雑する。	・高速道路及び環状線があるので交通アクセスは良い。 ・朝の渋滞が懸念される。
公共交通	病院は、高齢者や妊婦さんなどいわゆる交通弱者が多く利用する施設であることから公共交通であるバスが重要であり、県全体からのアクセスを考えると、バスだけではなく鉄道でのアクセスも考慮することが望ましい。	・バスの運行便が確立されており、統合新病院整備による市営バスの他路線への影響がない。		・短期的にはバスだが、長期的には鉄道の新駅を整備すべき、市外からの方に意味のある手当て。	・市営バスについて、この周辺は利便性は良い。	・市営バスの他路線をかなり減便する必要がある。	
救急搬送	到達圏人口・位置関係	中心に位置することで東西南北からアクセスでき、医療機関収容までの時間が短縮され、救命率の向上が期待できる。	・救急病院の配置バランスを考慮する必要があるのではないかと懸念される。		・少しでも早く医療機関に到着するために、中心部には徒歩時間は短くしたいと考えると、中心部に医療機関があることが非常に望ましい。	・圏域全体のベネフィット(便益)という意味ではやや浜田中央公園・県営スケート場周辺が優れているように見える。	・青森市の郊外に位置しており若干時間を要する。
	患者搬送環境	救急自動車の走行時間の短縮や、傷病者の安静を確保した状態で搬送するため、十分な道路幅員を確保することや、傷病者の負担にならないような平坦な路面、また、冬期間における確実な除排雪による搬送経路の確保などが望ましい。	・主要幹線道路の国道4号から至近距離にある。	・浪館通り側は、道路幅員が狭く、バス停留所も確保されておらず、普段から混雑している。 ・青森県総合運動公園までの経路である浪館通りには線路が2か所あり救急搬送を行う上で気になっている。	・市の各方面からのアクセスの良さや搬送にかかる時間とのバランスの視点から市の中心部への病院設置が望ましい。	・救急車のアクセスルートとして考えられる東側市道の拡幅や環状7号バイパス交差点の安全対策がなされれば、道路も広く、病院のアクセス道路という点については、問題はない。	・周辺道路は比較的整備されており、東西南北からのアクセスが可能。
災害関連	地震	・新病院は災害拠点病院として災害時でも継続して医療提供が求められることを踏まえると、免震構造という対策を講じるにしても、現在判明している断層など危険性のある場所からなるべく離れるなど、安全性を考慮する必要がある。 ・地震は、広域的に被害が発生するので、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定するべきである。		・入内断層が近隣にあることが分かっている。建物を免震や制震で建てられるのであればあまり問題とならない。	巨大な地震に備え、道路拡幅といった様々な検討が必要。		
	津波	・津波は建物への浸水だけではなく、押し流された船や自動車などが衝突し、建物などを破壊するといった影響も考えられる。 ・津波により広域的に被害が発生するので、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定するべき。 ・技術的な対策を講じるならば、防潮堤などの方法が考えられるが、その分余分にコストがかかる。 ・仮に施設機能が維持されても、物資の搬入やスタッフの交替要員の受入れルートの確保など運営体制の維持が難しいと思われるので、できれば津波が想定される場所は避けるべきと考える。	・津波は地震に伴う広域災害であり病院も広範囲で被災することが想定される。 ・津波によって診療機能が低下することは避けられた方がよく、避けられるのであれば避けるべき。			【災害全般】 ・全県的な災害対応を考えると、高速道路に近接している立地は利点になる。 ・現在の経済状況や工事の状況を考えて、スケジュール通り進むのか、2年3年も遅れてしまわないのかという懸念があり、災害のリスクを考えると現病院のままで対応せざるを得なくなるのが最大のリスク。	
	洪水	・洪水は地震や津波などと違い、多くの傷病者が災害拠点病院での診療を必要とすることは想定しにくい。 ・想定浸水深0.8m程度であれば、土地を嵩上げすることで浸水を防ぐことは技術的に可能である。 ・浸水対策で施設機能が維持できていれば、1m程度の浸水がある場合でも、備えをしておくことで災害拠点病院として機能を維持することは可能である。		※洪水浸水想定区域外		・想定最大規模における洪水浸水想定区域の端寄りにあり、セントラルパークよりは有利。	
その他	周辺環境用地取得既存施設		【洪水被害に対する考え方】 ・近年は内水氾濫や局地的豪雨など、川の氾濫に限らず浸水被害は起こる状態であるので、この洪水のハザードマップを外れていればそれで良いかというところというわけではない。 ・浸水対策で施設機能が維持できていれば、1m程度の浸水がある場合でも、備えをしておくことで災害拠点病院として機能を維持することは可能である。	・隣接する三内丸山遺跡を見てもらうこと ・ユネスコとの協議や建物の制約がある。	・火災等の対応で中央消防署や東消防署といった市内の重要な消防署に近く、火災や救助といった救急以外の警防活動にも非常に迅速に対応できるという点で有利。	・規模の大きい施設を解体し移転するといったところがあり、他の3か所と同じ土俵で比べるとは難しい。	・まとまった用地取得まで10年程度の期間を要するのではないかと懸念される。 ・未相続の農地は持ち主が不明なため買収すると同等に難しい。 ・用地取得に費用を掛ける必要があるのかどうかという視点も大事。

【青い森セントラルパーク】(5名)

青森公立大学 足達准教授	青森県建築士会 工藤副会長	青森市農業委員会 福士会長	青森地域広域事務組合 村上消防長	青森市町会連合会 佐々木会長
<ul style="list-style-type: none"> ・4か所の中で青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺は甲乙つけがたく、強い順番をつけることすれば、青い森セントラルパークかなど考える。 ・理由は2つあり、青森市の都市計画マスタープラン上、青森駅周辺地区などと同列の都市機能誘導区域という重要視された地区に位置づけられていること。浜田周辺も生活拠点区域に位置づけられていたため悪い場所ではなく、その意味で甲乙づけがたい。なお、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地も生活拠点区域に位置づけられているが、浜田周辺の方が良いと考える。 ・理由の2つ目はアクセス。青森市民に着目した場合ではあるが、セントラルパークの方が真ん中にあるため、やや圏域人口が多い。より広い範囲で見れば浜田周辺も同程度となるため、こちらも甲乙づけがたい。 ・浜田周辺は現在利用中の施設を移転することから、利用できない期間をゼロにする事業スケジュールを保障してもらう必要がある。また、セントラルパークは渋滞が指摘されており、道路拡幅といった対策が必要である。双方とも心配なところがあるので、その手当はきちんとやっていたきたい。 ・大きな病院を整備するからには、そこに往くための公共交通もきちんと整備すべき。誰でも使える交通手段は公共交通にはないの、そこは減便を気にするのではなく充実させていたきたい。短期的にはバスだが、長期的には鉄道の新駅であり、市外からやってくる方に意味のある手当てと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私は最初から青い森セントラルパークが良いと思っている。 ・まちづくりの観点からいうと、より中心市街地に近いところに整備し、それを核にこれから発展していくと思う。青森市のまちづくりの核となる施設になると思う、当然この場所に決まれば、駅の話も出てくると思う。 ・セントラルパークにしても交通アクセスの問題があるため、その対策は必要。特に、南北の動線は必須であり、仮にこの場所に決まった際には、十分検討していただきたい。 ・浜田中央公園・県営スケート場周辺は、現在、既存の施設がある。改修することでまだ何年も使える建物を解体し、おもしろいまちづくりも検討しないまま新たな場所に建設するのは無駄であり疑問に感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時のことを考えると、青森県総合運動公園が良いと思っているが遺跡の問題が気になる。 この検討会議は青森市のまちづくりの観点から整備場所はどこが良いのか検討する会議であり、青い森セントラルパークが適していると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院へのアクセス道路については、対策が進めば、青い森セントラルパーク、浜田中央公園・県営スケート場周辺、どちらも問題ない。 ・設置場所については、救急搬送を考慮すると市の各方面からのアクセスの良さや救急搬送にかかる時間とのバランスの視点から市の中心部への病院設置が望ましい。また、当署本部の管轄区域でもある東青地域全体の救急搬送の事情を見て、搬送距離・搬送時間という点で、市の中心部にある青い森セントラルパークが有利ではないかと考える。 ・救急搬送とは別に、火災等の対応を見ても、セントラルパークの方が中央消防署や東消防署といった市内の重要な消防署に近く、火災や救助といった救急以外の警防活動にも非常に迅速に対応できるという点で有利だと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青い森セントラルパーク周辺の渋滞や除排雪を懸念する声もあるが、浜田中央公園・県営スケート場周辺も国道7号バイパスは通勤ラッシュ時に渋滞しており、渋滞に対する懸念は双方同じと考える。その点は整備場所が決まった後に対策を練って渋滞解消に努めていけばよいものと考えている。また、除排雪についても、新病院整備に伴ってどこであってでも徹底するとのことであるので、除排雪に関する課題も解消されると考える。 ・これらを踏まえて、私としてはコンパクトなまちづくりや救急搬送の観点から青い森セントラルパークの方がよいと考える。

【旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地】(3名)

青森市浪岡商会 一戸会長	青森県立保健大学 三好准教授	青森県不動産鑑定士協会 最上監事
<ul style="list-style-type: none"> ・海の近くにあると、津波が来たとしても、その後片付ければ海を交通網として使えるという利便性があると考えます。また、現在の県立中央病院を基として、さまざまな形で交通網ができています。 ・これらのことから、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が良いと感じる。 ・浜田中央公園・県営スケート場周辺が整備場所となり、県営スケート場を移転することになった場合には、集客力を高めるためにも国際スケートができるようなスケート場を整備してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田中央公園・県営スケート場周辺は現在有効活用されている施設があり、このことが他の3か所との大きな違いである。県営スケート場やサードームといったかなり規模の大きい施設を解体し移転するところがあり、他の3か所と同じ土俵で比べるのは難しい。このエリアに県営スケート場と解体するものがあるならばこも良いとは思いますが、現実的にはそういうわけでもない。 ・私は公共交通の通院アクセスの観点でみてきた中で、災害のリスクは承知の上で旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が良いと思っています。一方で、まちづくりの議論の中で新駅の設置が実現できれば青い森セントラルパークが現実的だと感じています。 ・しかしながら、現県立中央病院が移転した場合の救急病院の配置バランスや「災害対策を行った上で」といった本日の議論を踏まえると、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地をもう少し考えてもいいのかなと思つた。青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺の2択であれば青い森セントラルパークと答えるが、この4カ所の中では、総合的に見ると旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が良いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青森市全体を見回してまちづくりを考えていくことが大事であり、現在の市の状況を見ると、西側は、新青森駅ができて、その後商業施設がいろいろ張りついてきている。南側は、旧イトーヨーカ堂周辺を中心に商業施設が張りつき住宅も増え人気のエリアになっている。一方、東側は、県立中央病院を中心にかつては良い時期もあったが、県立中央病院が南側に移転すると、東側の衰退が懸念されるほか、南側に病院まで整備するのはバランスを欠くのではないかと。 ・まちづくりの観点を重視するよりは救急搬送のことを考えていこう。交通量の多い場所への統合病院の整備は、更なる渋滞につながる。市民生活に支障を来してはならない、ひいては救急搬送に影響が出ることはあってはならない。 ・青い森セントラルパークについては、新駅ができる方向がはっきりしない限りは新駅をプラス要因とすべきではない。仮に新駅ができたとしても、線路の北側からのアクセスが確保されない状況は、中心市街地の活性化にもつながっていないのではないかと。 ・加えて、青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺ともに、周囲に住宅が張り付いており、また、浜田周辺は国道7号バイパス南側の開発が難しいとのこと。薬局など付随する医療関連施設の広がりも難しいのではないかと。 ・結論として、私は旧青森商業高校及び県立中央病院敷地が良いと考えている。 ・統合新病院の利用者には平内方面からの方もおり、必ずしも中央インターを利用する方ばかりではない。そう考えると、現在の県立中央病院の場所もそう悪い場所ではないと考える。 ・ここが整備場所になるのであれば、津波対策は万全にする必要があるという点は、当然であり、例えば、八甲田大橋の架け替えに100億円近く見込むのであれば、津波対策をしっかりと行つた上で、病院を建てることをもう少し真剣に検討しても良いと思う。

【浜田中央公園・県営スケート場周辺】(1名)

青森市医師会 北島会長
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの視点ではなく、病院機能を一番に握ってここに病院を作るのが良いのかを考えるべき。要は、アクセスが良く、きちんと救急搬送を行うことができることを重視すべきであり、また、統合新病院は、市民病院の機能に加え、全県から患者さんが集まるということも考慮しなければいけない。 ・青い森セントラルパークは、冬場の道路環境や渋滞が問題で救急隊も大変になるのではないかと。立地的にも南側一方のみのアクセスとなり、救急を掲げる病院としてはその点が弱点に感じる。確かに新駅の設置により近いやすくなる人もいるが、救急車での搬送を考えると、車でのアクセスを考えた方がいい。 ・浜田中央公園・県営スケート場周辺は、旧イトーヨーカ堂の通りは混雑しているが、全県からの救急搬送を考えると、高速道路に近いところが大きな利点と考える。 ・敷地面積についても、降雪や患者・職員の駐車場を考えると、少しでも広い方がいいと考える。 ・以上のことから、青い森セントラルパークより浜田中央公園・県営スケート場周辺の方が理があると考えます。 ・なお、統合新病院の機能上、ドクターヘリは必須であるが、住民からの反対で使用できない例もあるため、住民からの意見は聞いていく必要がある。 ・また、医師会とすれば、新病院がどこにできたとしても、新病院の傍にウォークインを診れる急病センターを作って、救急の負担軽減につながるよう手伝いたいと考えている。

【青い森セントラルパークまたは浜田中央公園・県営スケート場周辺】(2名)

青森商工会議所 葛西専務	国立病院機構本部DMA T事務局 近藤次長
<ul style="list-style-type: none"> ・青森市の立地適正化計画は、青い森セントラルパーク、浜田中央公園・県営スケート場周辺とも、区域の位置づけは異なるが、医療施設立地の適度と評価できる。ただし、まちづくりの観点から、将来的に青い森鉄道駅が設置された場合には、人口減少・超高齢化社会において社会資本の有効活用が可能となるので、青い森セントラルパークへの立地は、メリットも多いと考える。 ・救急搬送、通院アクセス、災害リスクなど各検討項目、論点については遜色ない事項やメリット・デメリットが交錯している事項も多いことから双方のエリアにおける優劣の評価は難しいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田中央公園・県営スケート場周辺について、代替の避難所が確保されるという点を前提でお話させていただくと、浜田中央公園・県営スケート場周辺の方が、想定最大規模における洪水浸水想定区域の端寄りであること、また、全県的な災害対応を考慮すると、高速道路に近接している立地は利点になることから青い森セントラルパークより有利だと考える。 ・しかしながら、整備スケジュール比較をみると、浜田中央公園・県営スケート場周辺は県営スケート場の解体仕事を前提としており、現在の経済状況や工事の状況を考えて、スケジュール通り進むのか、2年3年も遅れてしまわないのかという懸念があり、青い森セントラルパークの方がスケジュール感は確実だと考える。 ・災害リスクを考えると現病院のままで対応せざるを得なくなるというところが一番のリスクであるため、災害の観点と整備スケジュールの観点とのように捉えるのか、そこは総合的な判断になると考える。

【旧県立商業高校及び県立中央病院敷地または浜田中央公園・県営スケート場周辺】(1名)

青森市病院運営審議会 原子前委員
<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい場所について、どこが最適な場所なのか正直なところ迷ってしまつた。 ・自家用車を所有せず、通院などで病院を利用する場合、市営バスなど公共交通の利便性などがとても重要な要素となる。浜田中央公園・県営スケート場周辺が提案されるまでは、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が適当な場所だと思つていた。津波や洪水の心配はあるが、広い敷地と交通の利便性、救急搬送面での実績、周辺の環境や風景が良好で、極端に不適当な要素はなさそうに思う。 ・青い森セントラルパークは、県の整備スケジュールでは、八甲田大橋の架け替えとアクセス道路の整備、また新駅・自由通路の整備は、統合新病院の開院に間に合わない見通しが示されており、現段階では不透明感が強く、とても現実的とは思えない。そして、県営スケート場一帯系は、周辺の交通渋滞の予想はあるものの、市営バスの利便性は良好と思われる。 ・スケート場やサードームの解体整備、新病院の工事がさくさくとスムーズに進む予感がする。統合新病院の開院を令和14年10月とすつと、期待感が持てる提案だと思つた。 ・利用者の方には不便をかけないよう、移転先へのアクセスなど十分配慮してほしい。

【浜田中央公園・県営スケート場周辺】(9名)

片岡構成員(弘前大学理工学部教授)	福田座長(弘前大学学長)	北畠構成員(青森市医師会会長)	首藤構成員(平内中央病院院長)	高木構成員(青森県医師会会長)
<ul style="list-style-type: none"> 青森県総合運動公園は、近くに断層があるためふさわしくない。旧県立青森商業高校及び青森県立中央病院敷地は周辺地域全体を津波から守る対策ができればよいが、現実的に難しいと考える。 通常時においては、青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺のどちらがよいかは判断できない。 大規模災害が発生した場合を想定すると、資材を運ぶとか、周辺道路が混んでいないということを考えれば、浜田中央公園・県営スケート場周辺がよいのではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 青い森セントラルパーク周辺は閑静な住宅街で、そこに800床を超える統合新病院ができて、2,000人から3,000人の患者と医療従事者が通院・通勤することは、ある意味、大きな町が引越してくるような感じであり、一番問題になるのはアクセスと左右する。青い森セントラルパークは、北に鉄道、右側に大きな橋が架かっており、南側からしかアクセスできない状況下なので、対策はあるのだろうかと非常に疑問視していた。道路の拡幅、八甲田大橋の架替え、新駅の設置など提案があったが、そのほとんどが病院の開院に間に合わないかと想定され、そのような状況で候補地として推しているのが疑問がある。 全県の医療を考えれば、浜田中央公園・県営スケート場周辺が適地ではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 県立中央病院と青森市民病院が単純に統合するのではなく、様々な機能を持った中核病院ができることを前提とすべきであり、病院の性質上、全県から患者が来ることを考えなければならぬ。 青い森セントラルパークに関してはアクセスが問題になる。要は救急車が運べないのが一番問題になるのではないかと。特に冬場の渋滞は大きく、青森市総合体育館ができて平時の夜も混雑する中で、救急車がどう運ぶか。浜田中央公園・県営スケート場周辺よりも青い森セントラルパークの方が、圏域人口で見ると対象になる人数が多く、距離も近いので時間的に有利は数値ではあるが、実際にはいろいろな条件があり、数値的にはそれほど差はないと思う。 鉄道は魅力ではあるが、今の輸送量を見ると、鉄道を利用する患者は多くないと思う。やはり車が主体になることを考えると、浜田中央公園・県営スケート場周辺の方がいいと思う。 魅力のある病院を作って全国から人を呼んでくるということを考えると、少しでも広く、アクセスがいい、浜田中央公園・県営スケート場周辺がいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 統合新病院は竜飛崎から陸奥湾に沿って外ヶ浜町、青森市、平内町、野辺地町、下北全域までカバーする基幹病院である。そういった地域からのアクセスを考えると、高速道路の近くというのは最大のメリットである。このことは、8月9日の町村立病院長会議に出席していた病院長みんなが同様の感じであった。 浜田中央公園・県営スケート場周辺が候補地として最適じゃないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 青い森セントラルパークは平時でも渋滞がひどく、冬場はさらにひどい状態に陥っている。 渋滞対策として行う道路拡幅にも時間を要すると考えられるため、救急搬送とか災害関連も含めて、浜田中央公園・県営スケート場周辺が一番いい。

丹野構成員(全国自治体病院協議会青森県支部支部長)	水木構成員(芙蓉会村上病院院長)	佐藤構成員(乳がんピアサポートBECおもり代表)	納谷構成員(血液疾患と歩む患者・家族の会)
<ul style="list-style-type: none"> 諸々の機能を集約した県の中核病院ができることを考えれば、絶対、道路アクセスはマストだと考える。そういう意味では、やはり浜田中央公園・県営スケート場周辺がよいのではないかと考える。 十和田市立中央病院のデータでは、救急搬送は平日の日中が最も多い。平日の日中における道路アクセスが非常に重要と考える。そういう視点からも、浜田中央公園・県営スケート場周辺の方がアクセス的にはよいのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や除雪地の拡大を抑制する観点からは、中心部に近い青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺がいいのではないかと考える。 高次救急病院では車の移動を最優先で考えるべきであり、その点では、アクセスが煩雑で道路も狭く渋滞を起こしている青い森セントラルパークは厳しいと考えている。ただし、環状線も渋滞が発生しているため、解決していかなければならない問題である。 災害関連については、青い森セントラルパークは土地が低く、台風の際には冠水している部分があったため、道路の拡幅も必要だが、道路の高(かさ)上げも必要ではないかと考える。 医師として地域医療構想の観点から考えると、居住エリアゾーンに近く、公立の病院があって、その受け皿となる病院が近くにあるということで、地域の包括的な診療やケアを施しやすくなると思っている。青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺はあもりり協立病院や当院(村上病院)が近くにあり、他の浪打病院、青森新都市病院、青森厚生病院も同等の距離に離れていると思う。そういう観点では、青い森セントラルパーク及び浜田中央公園・県営スケート場周辺は、地域医療構想にも合致していて、医療連携という体制を考えたときにもいいと思う。 トータルすると浜田中央公園・県営スケート場周辺がよいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者や医療従事者等、人が相当数集まってくることを考えると、アクセスの問題は考えなければいけない。 病院が建設されたとしても、医療従事者が辿り着けないと病院が機能しないことになる。 統合新病院は、これから医療従事者になる方が主体となって回っていくような病院になると考えている。弘前大学医学部附属病院で学んでいる学生たちに働きたいと思ってもらえるような、そういった魅力ある病院をつくるということを考えると、浜田中央公園・県営スケート場周辺が一番いいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 病院へのアクセスという点では、安全に、安心して、ちょっとでも早く医療に繋がりたいというのが患者とその家族の希望である。職員にも、ストレスなく通院し、より良いコンディションで診察に当たってほしい。 入院中の経験として、県外から血液が届くの待って輸血したという経験もある。また、職場の仲間が冬に下北から3時間以上かけて救急車で搬送され、心配した経験もある。 こうした経験も踏まえ、アクセスという点から浜田中央公園・県営スケート場周辺を選びたいと思う。

【青い森セントラルパーク】(3名)

足達構成員(青森公立大学経営経済学部准教授)	村上構成員(青森地域広域事務組合消防長)	佐々木構成員(青森市町会連合会会長)
<ul style="list-style-type: none"> 4箇所の中で青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺は甲乙付け難く、強いて順番を付けるならば青い森セントラルパークが望ましい。 都市計画で、青い森セントラルパークは都市機能誘導区域、浜田地区は生活拠点区域に位置付けられているが、都市機能誘導区域は青森駅周辺など同じような重要性がある。 現在、県立中央病院と青森市民病院に通院する患者の83%が青森市民であることから、市内からのアクセスと圏域人口を重視した。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧県立青森商業高校及び青森県立中央病院敷地は、津波のリスクがあるのであれば、適地から外して考えるべきだと思う。 青森県総合運動公園については、遺跡が出る可能性がある地域であるため、整備場所としては考えにくい。また、国道から浪館通りに入っていく際には2箇所の踏切があり、変形変則の五差路で、大渋滞していて、かなり危険なところであり、救急搬送についても懸念がある。 青い森セントラルパークと浜田中央公園・県営スケート場周辺についてであるが、当初より救急搬送の観点から、統合新病院へのアクセス道路については、一つには渋滞、狭路(あい)といったキーワードに合致しない状況であること、二つには路面状況の良い道路が設置されていること、三つには確実な除排雪の実施により搬送経路が確保されていること、これらの3点について要望してきたところである。両者とも統合新病院整備場所等検討会議等で示されている対策等が行われれば、これらの3点の要件を満たすと考えている。ただし、浜田中央公園・県営スケート場周辺の場合は、県営スケート場東側の道路の拡幅や環状7号バイパスの安全対策が条件となることは念押ししたい。 東青地域全体の救急搬送の実情に鑑みても、搬送距離、搬送時間という点で、市の中心部にある青い森セントラルパークが有利ではないかと考える。 火災等の対応、救助作業について考えると、中央消防署、東消防署といった主要な消防署に近く、迅速な活動を展開するということで、青い森セントラルパークの方が有利ではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 青い森セントラルパーク周辺の渋滞や除排雪を懸念する声もあるが、浜田中央公園・県営スケート場周辺も国道7号バイパスは通勤ラッシュ時に渋滞しており、渋滞に対する懸念は双方同じと考える。その点は整備場所が決まった後に対策を練って渋滞解消に努めていけばよいものと考えている。また、除排雪についても、統合新病院整備に伴って、どこであっても徹底することであるので、除排雪に関する課題も解消されると考える。これらを踏まえると、コンパクトなまちづくりや救急搬送の観点から青い森セントラルパークの方がよいと考える。

【青い森セントラルパークまたは浜田中央公園・県営スケート場周辺】(1名)

岡田構成員(東北大学加齢医学研究所)
<p>浜田中央公園・県営スケート場周辺は、環状7号バイパス、高速道路からのアクセスが良く、青森市以外も含めた全県的な重症患者搬送にも適していると思われる。青い森セントラルパークは市の中心部にあり、患者の外來通院や職員の通勤の利便性という点では利点があると思われる。</p>

【旧県立商業高校及び県立中央病院敷地または浜田中央公園・県営スケート場周辺】(1名)

原子構成員(青森市病院運営審議会前委員)
<ul style="list-style-type: none"> 県民や県外の方など不特定多数の方が利用する病院なので、誰でも利用しやすい病院、場所であるべき。そのため交通アクセスは、自家用車の所有の有無に関わらず、とても大事な点だと考える。 比較的好まれる場所として旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地と浜田中央公園・県営スケート場周辺を選んでいる。交通アクセスは良好だが、津波対策と既存施設の移転、整備が必要という課題もあるためである。 県立中央病院は、幅広い年代層でどんな病気でも診てもらえて、治療してもらえるというイメージがある。家族や自分自身も利用経験がある中で、統合新病院が整備されても、この期待感を持ち続けることになる。病院には様々な医療情報の発信を求める一方、利用者サイドとしては憧れと自慢のできる病院であることをPRしていきたいと思っている。

共同経営・統合新病院の整備場所に係る知事と市長の会談（令和6年9月16日）

○ 合意内容

統合新病院の整備場所については、青森県立中央病院が担う大規模災害時の基幹災害拠点病院としての立地を最優先させ、浜田中央公園・県営スケート場周辺を整備候補地とすることとし、整備運営に当たっては、県全域を対象とした高度、専門、政策医療の拠点病院である青森県立中央病院と青森地域保健医療圏の中核病院である青森市民病院の双方の機能を最大限発揮できる病院として取り組んでいく。

○ 合意に伴う課題解決のための具体策

以下について、県と市が連携・協力して進めていく。

- ① 統合新病院の整備により移転が必要となるサンドームについては、青い森セントラルパーク地区に移転整備することを基本とすること。
- ② 浜田中央公園については、現在の機能を維持し、整備を行う場合には地域住民の意向に最大限配慮すること。
この際のサンドームを含む市有施設の移転や整備等の費用については、県が市に協力すること。
- ③ 統合新病院の整備に伴う交通対策として、周辺道路の整備による渋滞対策や救急アクセス対策のほか、公共交通の整備に向けて青い森セントラルパーク地区への新駅整備の検討も含め、早急に県と市がそれぞれの役割を果たしながら連携して検討を進めていくこと。
- ④ 青い森セントラルパーク地区への新駅整備、ここからのアクセスを含め、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向け県と市による検討会議を立ち上げ、青い森セントラルパーク地区を含む市街地の整備について、具体的なまちづくりビジョンを策定し、実行していくこと。

整備場所検討対象地に対する知事の考え

旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地

- 津波浸水エリアに病院建設は不可能です。外構で津波対策を工夫したとしても、周辺一帯が瓦礫の山になり、県民の命が一番重要な場面で守れなくなります。
- 現在の県病の場所に建て替えて、東側の医療体制を維持したいという気持ちは分かります。また、現在の場所というのが安心だという心情も理解できます。
- さらに若葉養護学校や県の研修施設まで含めれば広大な土地が確保され、さらに開発余力のある土地になるという可能性を示唆する声も届いています。
- そういった意味では、一見候補地ですが、ここを候補地ということを行っている方で、東日本大震災の現場を見た方がどれくらいいるのでしょうか。
- 私は、発災から約1ヶ月後に被災地に行きましたが、堆く積み上げられた瓦礫の山をかき分け、自衛隊が遺体の捜索をしている風景を忘れることはできません。
- 津波が来るエリアには、その時に一番役に立たなければならない病院を建設するなどということはありません。
- 何百年に1度、何年で何%など、来るはずのない津波とかいうのは全て正常性バイアスで、自分だけは大丈夫、自分たちのところだけは大丈夫という思い込みです。
- 皆様の命を守る最後の砦が一番機能しなければならないときに、機能しなくなる。こんなことはあってはなりません。

整備場所検討対象地に対する知事の考え

青森県総合運動公園

- 県立中央病院は高度急性期医療を担う病院でありますから、郊外に立地ということはあるいは基本でもあります。
- そういう意味において、総合運動公園は、救急アクセス向上のための道路の拡幅やアプローチ道路の整備(用地確保)に取り組まなければならないことに加え、埋蔵文化財出土の可能性があるとといった課題等があるものの、私自身は県立中央病院の敷地として適地とも考えていました。
- ただし、今回は市民病院との合併ということであるため、青森市の意見というものを大切にしなければなりません。
- むしろ全く総合運動公園を推す声というのが出てきませんでした。そうであれば、ここは有力な候補地ではないのだということで、青森市の意見をよく聞こうということになりました。

整備場所検討対象地に対する知事の考え

青い森セントラルパーク

- 操車場跡地ですが、周辺を住宅地で囲まれていますので、開発余力は敷地以外にはありません。
- また、公園だけでなく、周辺一体が浸水エリアですから、津波ほどではありませんが災害リスクがある土地となっており、いざというときの機能を果たすことができない可能性があります。
- 洪水は津波とは違って、1日か2日で水は引きますし、そういう意味では、盛り土工事等で病院そのものの浸水は免れることができる可能性があります。
- また、それが八甲田大橋なのか中央大橋なのかはともかく、アクセス路を確保することによって、災害時の一定のアクセスも確保できる可能性はあると考えていました。
- ただし、周辺が狭隘な生活道路が張り巡らされている住宅街であり、一年を通じての一般病院交通の確保が課題であると認識しています。
- 一部の市道を拡幅しても、交通というのは水と一緒にあり、空いている道路に逃げていくことになります。
- 現在、生活道路として使われているところも含めて交通流が活発になることをどのように整理するのか。ここは避けては通れない論点です。
- 一方で、アリーナが整備されました。この整備自体はセントラルパークにとっては素晴らしいことだと考えています。ただし、病院建設の候補地としては、さらに土地の余力を縮める結果になりましたし、イベント時にはそれだけで交通流を困難にすることでしょう。
- このため、私としては、このセントラルパークも候補地としては極めて課題の多いエリアであると当初から認識していました。
- ただし、病院が建てられないとまでは考えておりません。

整備場所検討対象地に対する知事の考え

浜田中央公園・県営スケート場周辺

- 検討会議・有識者会議の議論も踏まえ、特に外環状周辺でということを中心に、まずは病院局だけでなく、県土整備部、健康医療福祉部、危機管理局をはじめ関係部局を参集して、青森市内の適地を改めて探す調査を行いました。
- まさに地図を広げて、丁寧に一つ一つあたっていく作業を行いました。
- そして、災害リスクのない場所をスクリーニングし、民地については地権者の数などを把握して可能性を調査しましたが、やはり民地は一定の区画面積を確保するためには非常に時間がかかり難しいという判定になりました。
- 公有地も複数箇所調べましたが、地震の断層や浸水域等の理由から、スケート場、浜田中央公園が案として出てきました。
- 少なくともスケート場は浸水エリア外だということ、そもそもスケート場は50億以上かけて改修工事を行うということがありましたので、ファシリティマネジメントの観点からも望ましいということも考えました。
- スケート場と比べてサンドームは利用者の多い施設ではありますが、病院の建設スケジュールから考えても解体前の移転新設を十分に実現でき、老朽施設の一つでもありますので、リニューアルオープンした方が利用者利便の向上にも資するという理解を得られるだろうと判断しています。
- 浜田中央公園は区画整理の公園であるため、利用にあたっては住民意見の聴取が必須となりますが、公園機能の維持等を前提に理解を得ていきたいと考えています。
- これらを踏まえ、確かに、既存施設の移転新設について、あるいは周辺道路の渋滞緩和等の論点は残るものの候補地の一つとして提示することは可能だろうという結論を得たということです。

整備場所検討対象地に対する知事の考え

浜田中央公園・県営スケート場周辺

- また、セントラルパークからは離れますが、2キロ程度です。しかも環状道路の内側ということもあり、郊外に建設するよりは、検討会議の議論でよく出てくるコンパクトシティーという、青森市のまちづくりからも大きく逸れることのないエリアであるとも考えました。
- その上で、病院本体以外の周辺整備を県で試算したところ、十分に可能性のある地域だったことを踏まえ、有識者会議に提案できる候補地としたものです。
- 結果的に公園が併設される環境になることから、天気の良い日は、お見舞いに来た家族と散歩を楽しんだりできる。
- あるいは公園で遊んだり運動したりしている子供たちを見て、お子さんやお孫さんのことを思い出すことで、退院に向けての活力につながると思う。
- まだまだ道のりは長いですが、青森県の医療の最後の砦、そして県と青森市の中核病院として、県民、市民の皆様に愛される病院になるよう西市長それから青森市と青森県そして県立中央病院が連携して取り組んでいきたいと考えている。

整備場所検討対象地に対する市長の考え

- まず自然災害の中で最も甚大な被害が大きく出るのは地震とその後くる津波だと思っております。ですので、地震の影響が大きく出る場所、もしくは津波の影響が大きく出る場所は避けるべきだと最初から思っておりました。
- そういう意味では、まず活断層が通っている三内地区は難しいだろうと思っておりました。また、唯一、津波が想定される場所である、商業高校跡地及び現在の県病の場所も難しいだろうと思っておりました。
- そういう意味では3つの中から一つ選ぶとすればセントラルパークということで、今までずっと私は、私なりの意見を申し上げ続けてきたわけであります。
- その後、県の方からスケート場周辺の案が出てきまして、その後の検討会議や有識者会議でのご意見を見てもわかるとおり、やはりなかなか甲乙つけがたいという意見も多く出されたようであります。私としては、最初はかなり無理がある計画だなということでお話をしておりましたけれども、そこをさらに細かく突っ込んでいって県の方から様々な根拠ですとか、データを求めて、それも一つ一つ出してもらいましたし、知事ともいろいろなお話をしていく中で、それぞれ一長一短ある中でそれぞれの場所にしたときに出てくる課題ですとか、懸念材料、そういったものをどうやったら解消できるか、そういう打ち合わせをどんどんどんどんしていきました。
- そんな中で、今回、先ほどお示いたしました4つのポイントがきちんと解消できるのであれば、そのどちらの場所であっても十分病院の立地としては条件がそろうなという考えに至りました。
- その中で一つ、やはり最大限重要視しようと思いたしたのは、やはり県病の持つ大規模災害時の基幹災害拠点病院としての立地。これは何よりも重要視しなくてははいけない。これが県の病院の全く大事な機能の一つでありますので、その部分は尊重しなくてははいけないということで、高速道路から比較的近い場所という、そのポイントが今回合意に至る大きなきっかけになったことは確かであります。
- その他の部分は、4つのポイントに関して、しっかりと課題解決に向け、具体的に取り組んでいくことによって、スケート場周辺の場所でも良いという考えに至りました。もちろん、セントラルパークも適した場所であることは変わらないと思っております。

